

第4章 指標のための新たな調査項目（案）の作成（計画書 Bチーム Cチーム）

1. 調査項目作成の目的

児童発達支援・放課後等デイサービスサポート加算Ⅰの指標調査の内容は、成人分野で使用されていたものや、別の目的で使用されていたものを援用する形での導入が図られ、その導入については、残念ながら十分な準備、検討がされてきたとは言い難い。

また、関係者の多くは、児童の実態を表すものとしては、必ずしも十分ではないと感じているのではないだろうか。さらに、この指標調査の内容は、家族にとって、心理的な影響を強く与えるものであり、かつ事業所にとっては、運営に関わるものでもある。また、その手続きと判断は、行政に委ねられている。

この章では、これらの現状を捉えたうえで、「一人ひとりの子どもが子どもらしく、安全と安心のうちに健やかに育つ上で必要なことは何か」という視点に立ち、調査項目の領域の選考と項目立案を現場の状況を踏まえて検討を進めた、新指標調査項目（案）の作成の過程を報告する。

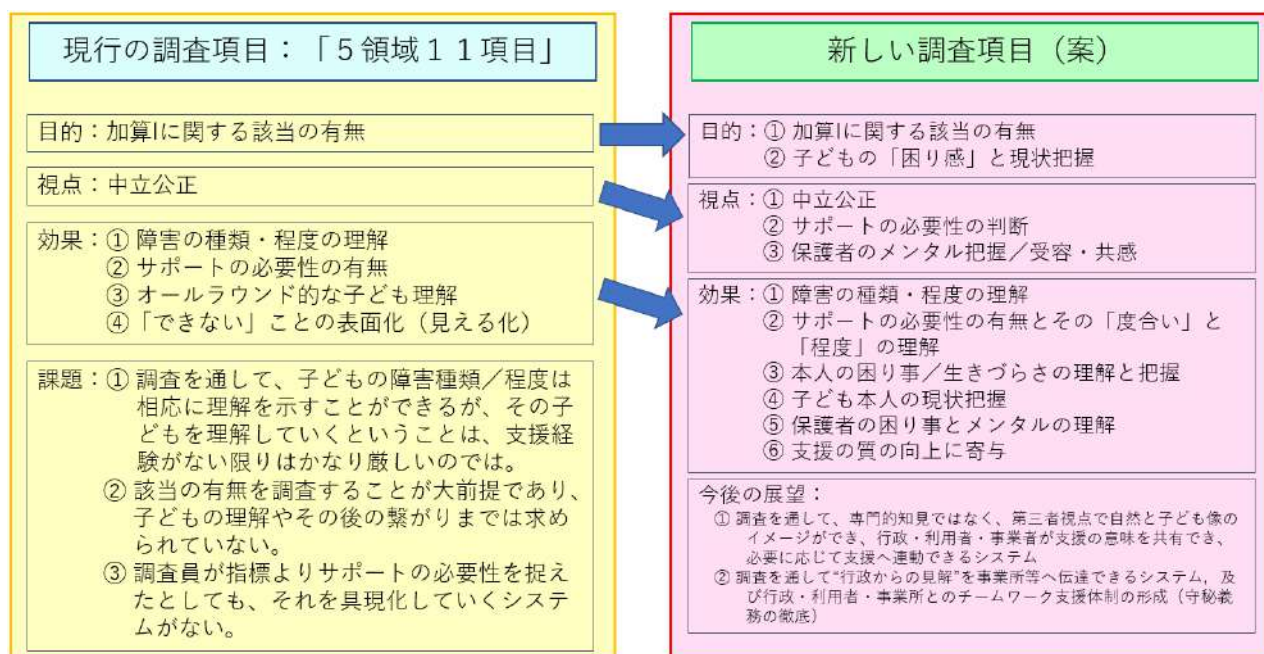
2. 調査項目の作成

(1) 現行の調査内容の見直しと検討の方向性

現在使用されている5領域11項目の調査内容を、「子どもの現状把握及び支援の質を視野に入れた視点」と、「行政及び財政における理解への配慮という視点」、この二つの視点を持って、指標の新しい調査項目（案）を作成することとした。

① 「子どもの現状把握及び支援の質を視野に入れた視点」

～ 子どもの現状把握（発達状況）と困りごとを的確に捉えることができる調査項目作り ～



「行政及び財政担当者のための本人理解への配慮という視点」

(方向性)

- ・ 子どもの現状把握及び支援の質を視野に入れた視点をベースとした項目の立案
- ・ 「できる・できない」に焦点を当てた指標から、「困り感」に焦点を当てる指標へ

→ その困り感に対して、どのようなサポートが必要であるのかの“度合い”及び“程度”が理解できる（支援度が分かる＝どういう支援が必要なのか分かる）指標にする

- ・ 聞き取り調査を担当する行政が、保護者等とのやり取りを通して、現場及び子どもの困り感を反映させながらも、同時に現状把握も可能といった指標にする
- ・ 状態像を把握する上で、サポートの必要量が支援区分になっていることが課題（これまでの指標づくりの変遷の中での課題の持越し）であり、その検討や再構築、見直しを試みる
- ・ 現行の介護度及び強度行動障害度を主軸とした指標から、子どもの現状を主軸とした指標を試みる（支援の内容及び保護者のニーズも含む）
- ・ 指標をベースとし、そこから支援の質自体も向上できる形を検討する（行政担当者や支援者も共に理解が深まるものができるのか）
- ・ 子ども本人の意向はどこにあるのかを見極められる指標にする

② 「行政及び財政における理解への配慮という視点」

～行政の理解を示しやすい調査項目作り～

（方向性）

- ・ 調査項目を使用し、指標該当の可否を判断・決定するのは行政であるということ
- ・ 行政担当者が、わかりやすく、負担にならない調査項目の内容と量
- ・ 判断の仕組みが最良になる視点についても検討し提案していく（行政窓口の聞き取り調査が全てを包括する形で良いのか？成人のように審査会等の段階的判断の仕組みがない現状との差を検討する必要あり）

さらに、Dチームにて、現行の指標がどのように算定されているかなどの情報を国保連データ、行政調査や事業所調査において明らかにする。

(2) 指標調査項目（案）の作成の手続き

我々は、新しい指標調査項目の作成において、子どもの発達段階や障害の特性による本人の困り感に焦点を置き、児童期・思春期と成長していく子どもの支援の着眼点としても役立つ内容にすることを念頭に項目立てを行った。

その際の考え方や留意点は以下の通りである。

- ・ 事業所の中での支援に焦点を当て支援時間中にその子どもに個別的に費やす労力（環境も含めた支援）がどの程度必要か
- ・ 調査者は、専門家でない行政担当者であること
- ・ 聞き取りの際に、保護者を傷つける内容にならない項目や表現にすること

作成のプロセスとして、BチームとCチームが以下の役割分担で進めた。また、これらの過程は、Aチームと情報共有しながら進めた。

Bチームが指標調査項目の抽出

↓

Cチームが小項目の設問・細項目（選択肢・解説）の作成

↓

Bチームが行政の担当者による調査を想定して、指標調査選定

1) 指標調査項目の抽出…B チーム担当

① 現状の課題と新しい調査項目の様々な視点の意見出し

- i) 現在、運用されている調査票及び留意事項を確認しながら、現場感覚に基づき、違和感を持った点は以下の通りであった。
 - ・ 保護者の立場にたった違和感：聞き取られる側として、子どもの状況が大変であるということ認めないとならない構図となり、保護者が心理的に傷つくことにならないだろうか。また、保護者が、家庭と事業所（集団の場）における子どもの状況の違いを含めた説明ができるのだろうか
 - ・ 支援者としての違和感：子どもの「できなさ」に焦点が当てられ、発達支援として本人の抱えている「困り感」や「うまくいかなさ」を理解する項目になっているのだろうか
- ii) 以下の視点を基に、指標調査の大項目を設定し、項目を作成にあたった。
 - ・ ライフステージの視点
 - ✧子どもの育ちを追っている項目で考えるのか？
 - ✧思春期の問題はどのように考えていくのか？
 - ・ ガイドラインの視点
 - ・ 発達支援・家族支援・地域支援の視点
 - ・ 子どもの権利の視点
 - ・ 障害特性の視点
 - ・ ICF の視点
 - ・ 障害特性の視点

② 大項目の提案と検討

児童発達支援ガイドラインに記載されている「日常生活の基本動作の指導・知識技能の付与・集団生活への適応訓練その他の便宜を提供」という視点を踏まえ、以下の7つの大項目を設定した。

- 1 健康・生活
- 2 運動・感覚
- 3 認知・行動
- 4 言語・コミュニケーション
- 5 人間関係・社会性
- 6 医学的な配慮
- 7 児童期・思春期の中で必要なポイント

同時に、現場経験者ならではの感覚で、「子どもたちが、周りの環境・情報を受け止め、理解・認知し、自分の行動として組み立て、実行する。そこから学び、気づき、心が動き、もっとやりたい、大好き・苦手さを知り、自分自身が育つことを想定し、さらに、人や新しい場面でも臨機応変に対応していく子ども様子を描き」ながら、中項目、小項目を設定及び作成した。

ここでは、ライフステージに応じた、発達課題や思春期の様々な不適応行動を予防及び対応で

きる視点も取り入れ、調査項目案とした。その際、できる限り、子どもが育っていく過程において、大切なポイントを明確に押さえ、かつその子の発達に合わせ、配慮された支援を受けることができる指標を目指した。

そして、指標調査の在り方として以下の点が再度確認された。

- ・ 行政の調査員と親への聴き取り状況を対象とすること
- ・ 親への聞き取りの中で、子どもの様子を読み取れるものにする
- ・ アウトプット面だけを評価するのではなく、インプット面も評価し、かつその両面の統合性もそれぞれ異なることを理解し、現場の視点で優先順位をつけ拾っていきけるものにする
- ・ 事象の背景を捉え、根幹を探るためにいろいろな場面を探ることのできるものにする
- ・ 発達のライフステージに合わせた捉え方とそれに合わせた指標にする

この確認点を踏まえ、子ども本人が困っていること、その困っていることへのより丁寧なかかわりを行うための調査項目とした。

指標項目案（7つの大項目とそれぞれに中項目、小項目）は以下の通りである。

大項目	
	中項目
	・小項目
1	健康・生活
	生活リズム
	・食事
	・排泄
	・睡眠
	・体温調節
	・生活習慣
	・入浴
	・洗顔
	・歯磨き
	・清潔行動（手洗い等）
	・着脱
2	運動・感覚
	感覚器官の働き
	・目の動き
	・聴こえ
	・味覚
	・口腔機能
	・姿勢の保持（立つ・座る・歩く・止まる）
	・運動の基本的技能
	・目と手の協応
	・不器用さ
	・感覚特性
	・過敏さ
	・鈍感さ
3	認知・行動
	身体知覚
	認知の偏り・こだわり
	運動企画
	危険回避行動

	注意力 情緒的安定
4	言語・コミュニケーション 3項関係 理解 表出
5	人間関係・社会性 愛着関係 人とのかかわり・やりとり（親・友達・大人） 遊びや活動 集団への参加 感情コントロール
6	医療的な配慮 服薬管理 発作、血糖値管理など
7	児童期・思春期の中で必要なポイント 基本的日常動作 自立生活・余暇活動 コミュニケーション 意思表示 表現活動 地域生活・地域交流

2) 文言の検討 C チーム担当

設問や解釈、選択肢の内容を創ることを目的とした。

各地域で編成した6グループにて、メンバー構成は、直接支援に携わっている者を主とした総人数37名である。

① 指標調査項目の小項目再検討と細項目の抽出

i) 2021年7月26日～8月16日間でグループ毎に会議を実施し、小項目の表現の検討ならびに細項目の抽出を実施した。なお、会議は可能な限り対面での実施としたが、新型コロナウイルス感染状況によっては、リモートでの実施となった。

ii) 子どもの成長発達に着目して、グループ毎に小項目の再検討ならびに細項目の抽出を行なった。その結果、以下に示す数の項目が抽出された。

- ・ 旭川G：小項目設定数…47 / 細項目設定数…260
- ・ 函館G：小項目設定数…26 / 細項目設定数…170
- ・ 青森G：小項目設定数…34 / 細項目設定数…144
- ・ 秋田G：小項目設定数…57 / 細項目設定数…50
- ・ 大阪G：小項目設定数…59 / 細項目設定数…351
- ・ 鹿児島G：小項目設定数…53 / 細項目設定数…207

iii) ii) の項目の傾向と論点

- ・ 直接支援をしているが故に、自ずと子どもの成長発達にクローズアップした項目になる傾向がある。
- ・ 発達検査及びアセスメントに近い形となり、項目数も多くなったが、これにより多角的に子どもを捉える項目を得るものでもあった。

3) 調査項目の確定

i) チームリーダーにて、Cチームの6グループにより抽出された項目を元に、小項目を整理し、細項目を含めて確定することとした。項目確定の際の留意点を以下に整理する。

- ・ 子ども本人の抱える「困り感」や「うまくいかなさ」を理解できる「子どものための」調査項目であること。
- ・ 子どもが受ける支援の一助となる項目であること。
- ・ 行政の調査担当者が子ども本人の抱える「困り感」や「うまくいかなさ」を理解しやすいこと。
- ・ 行政の調査担当者が使用しやすいこと。

ii) 整理した調査項目は以下の通りである。

① 発達（言語・コミュニケーション／人間関係・社会性／認知・行動／感覚・姿勢・運動／健康・生活／医療的配慮）に関する領域と項目〔確定〕

☆ [言語・コミュニケーション] 編……………13項目

☆ [人間関係・社会性] 編……………14項目

- ⇨ [認知・行動] 編…………… 1 1 項目
- ⇨ [感覚・姿勢・運動] 編…………… 1 4 項目
- ⇨ [健康・生活] 編…………… 1 2 項目
- ⇨ [医療的配慮] 編…………… 2 3 項目

合計：6 領域 8 7 項目

② 児童期・思春期（児童期・思春期必要ポイント）に関する領域と項目 [確定]

- ⇨ [基本的生活動作] 編…………… 2 4 項目
- ⇨ [自立生活・余暇活動] 編…………… 2 0 項目
- ⇨ [コミュニケーション] 編…………… 1 2 項目
- ⇨ [地域生活・地域交流] 編…………… 1 2 項目

合計：4 領域 6 8 項目

③ 発達に関する領域と項目の内訳

領域	項目内容		
言語・COM 領域 [1 3 項目]	二項関係（人・人）	二項関係（人・物）	三項関係（共同注視）
	三項関係（要求表出）	三項関係（応答）	自己気付き（呼名反応）
	自己気付き（自己身体理解）	理解（ことば）	理解（ことば以外）
	表出（意思の表出）	表出（ことば）	表出（ことば意外）
	その他（模倣動作）		
人間関係・社会性 領域 [1 4 項目]	愛着関係	人との関わり（対人関係）	人との関わり（他者への興味関心）
	遊びや活動（どんな遊び）	遊びや活動（小集団遊び）	遊びや活動（ルール理解）
	遊びや活動（トラブル頻度）	集団への参加（集団参加状況）	集団への参加（他者への興味関心）
	集団への参加（同空間共有）	感情コントロール（快・不快）	感情コントロール（表出の可否）
	その他（やりとり）	その他（集団帰属）	
認知・行動 領域 [1 1 項目]	身体知覚	認知の偏り（興味幅）	認知の偏り（こだわり有無・環境）
	認知の偏り	運動企画	危険回避行動

	(こだわり有無・時間)		
	注意力	情緒的安定	見通し (予測理解)
	見通し (急な変化対応)	その他	
感覚・姿勢・運動 領域 [1 4 項目]	感覚器官 (目の動き)	感覚器官 (聞こえ)	感覚器官 (味覚)
	感覚器官 (触覚)	感覚器官 (口腔機能)	姿勢の保持 (立つ)
	姿勢の保持 (座る)	運動の基本的技能 (手指動作)	運動の基本的技能 (目と手の協応)
	運動の基本的技能 (目と足の協応)	運動の基本的技能 (不器用さ)	運動の基本的技能 (移動・歩く)
	運動の基本的技能 (移動・走る)	運動の基本的技能 (移動・止まる)	
健康・生活 領域 [1 2 項目]	生活リズム (食事・偏食)	生活リズム (食事・手伝い)	生活リズム (排泄)
	生活リズム (睡眠)	生活リズム (体温調整)	生活リズム (その他)
	生活習慣 (入浴)	生活習慣 (洗顔)	生活習慣 (歯磨き)
	生活習慣 (清潔行動)	生活習慣 (着脱)	生活習慣 (その他)
医療的配慮 領域 [2 3 項目]	服薬管理 (服薬)	服薬管理 (管理)	医療的配慮 (通院)
	医療的配慮 (通院・2)	医療的配慮 (点滴管理)	医療的配慮 (点滴管理・2)
	医療的配慮 (中心静脈栄養)	医療的配慮 (中心静脈栄養・2)	医療的配慮 (人工透析)
	医療的配慮 (人工透析・2)	医療的配慮 (ストーマ)	医療的配慮 (酸素療法)
	医療的配慮 (レスピ)	医療的配慮 (気管切開)	医療的配慮 (経管栄養)
	医療的配慮 (モニター測定)	医療的配慮 (留置カテーテル)	医療的配慮 (血糖値管理)
	医療的配慮 (吸引)	医療的配慮 (吸入)	医療的配慮 (発作)
	医療的配慮 (胃ろう等)	医療的配慮 (精神状態)	

④ 児童期・思春期に関する領域と項目の内訳

児童期・ 思春期必要ポイント 〔４領域〕	基本的日常動作 〔２４項目〕	自立生活・余暇活動 〔２０項目〕	コミュニケーション 〔１２項目〕
	地域生活・地域交流 〔１２項目〕		

４）項目ごとの設問と解釈文の作成

- i) 以下の様に、Cチーム６グループに領域を割り振り、１０領域／１５５項目に対して、設問及び解釈文を作成した。

	旭川 G	函館 G	青森 G	秋田 G	大阪 G	鹿児島 G
大項目	言語・ COM	人間関係・ 社会性	医療的配慮	認知・行動	感覚・ 姿勢・運動	健康・生活
共通項目	児童期・思春期必要ポイント					

各グループに割り当てられた領域について、以下のスケジュールにて６回の検討の場をもち、現場感覚を元に、その内容と重要度を判断しながら作業を進めた。

- ① 担当領域の設問及び選択肢作成（２０２１年９月上旬～中旬にかけて２回）
- ② ①に対しての解釈作成（２０２１年９月下旬～１０月下旬にかけて４回）

この過程を経て、子どもの全体像をおおよそ把握できる調査項目と解釈文は作成された。

また、解釈文の作成により、項目ごとの着眼点が整理され、保護者・支援者・行政担当者がチェックできる設問、解釈に整理する事ができた。

しかし、現段階では、アセスメント及び発達検査のような形式は改善されておらず、益々その傾向が強まる点は懸念された。

- ii) 領域ごとに作成された設問ならびに解釈文は以下の通りである。

以上より、

1) 言語・コミュニケーション 編 [13項目]

	視点	設問	選択肢					向き
1	(人-人) 2項関係	お子さんは、楽しい時に目を合わせますか	①	②	③	④	⑤	行政 保護者
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		1対1の関係性について 期待感 共感性 共感的スマイル 例えば「イナイイナイバー」	人との1対1の関係が成立している(経験していた) 人に対する期待感、共感性がある。	人との1対1の関係が成立している(経験していた)が、一方的だったり発信力が弱い。 人に対する期待感、共感性が弱い。	目があることはあるが、言葉がけや感情を共有する場面でないことが多い。	選択肢通り。		
2	(人-物) 2項関係	お子さんは、物に興味関心がありますか	①	②	③	④	⑤	行政 保護者
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		物に対する反応について 物にこだわる/独自の使い方をする/色々な物に興味を示して試し行動をする。	色々な物の使い方がわかる。	特定の物や使いなれている物なら使い方がわかる。	好きな物にこだわる 用途と違う使い方をする。	選択肢通り。		
3	(共同注視) 3項関係	お子さんは、指さしたものをみますか(過去にできましたか)	①	②	③	④	⑤	行政 保護者
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		人を介して2者間以外の人や物に関心を示すか。	同じ物に視線を向けることができる。	タイミングが合えば見ることがある。	選択肢通り。			
4	(要求表出) 3項関係	おこさんは、指さしをして要求を伝えようとしたですか(過去にできましたか)	①	②	③	④	⑤	行政 保護者
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		2者間以外の人や物への関心を指さしで人に伝えようとするか。	教えようとして指さしをする。	指さしをすることがあるが、要求を伝えるような場面ではないことがある。	選択肢通り。			
5	(応答) 3項関係	おこさんは「○○はどれ？」でそれを指さすことができますか(過去にできましたか)	①	②	③	④	⑤	行政 保護者
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		2者間以外之物に関する問いかけに対して応えることができるか。	「あれちょうだい」というもってくる。	場面によっては持つてくることもある。	選択肢通り。			
6	(自己気付き) 自己反応	おこさんは「○○ちゃん」と呼ぶと振り向いたり返事をしますか	①	②	③	④	⑤	行政 保護者
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		大人の呼びかけに反応するか。呼びかけに発声や身振りなどで応答する場合も可。	自分の名前を理解していて、遊んでいても応答する。	普段は応答するが、遊んでいるときは気づかないことがある。	誰の名前でも同じように返事をする。	選択肢通り。		
7	(自己気付き) 自己理解	お子さんは、身体の一部の名前をどのくらい知っていますか 例)「目はどこ？」 例)「ここはなに？」	①	②	③	④	⑤	行政 保護者
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		以下の体の部分の位置や名前のチェック。 質問部位 目・口・耳・歯・鼻・髪・爪・手・足・頭・おしり・胸 身体部位の名称表出(言語表出)を確認。 身体部位の位置の指さし(非言語)も可。	10か所以上知っている。	6/12か所以上知っている。	3~6/12か所以上知っている。	1~2か所・または全く知らない。		

	視点	設問	選択肢					向き
8	理解 (ことば)	お子さんは、言われていることがどのくらい分かりますか	① 三語文以上わかる	② 二語文がわかる	③ 単語がわかる	④ わからない	⑤	行政 保護者
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		言葉の理解が日常生活上支障がないか。	内容がお互い理解できやり取りができる。	「パパ」「きた」のように2語文で理解できる。	「ママ」などの単語がわかる。	ことばかけでも反応がない/通じない。		
	視点	設問	選択肢					向き
9	(ことば以外)理解	お子さんは、視線やジェスチャーで簡単なやり取りができますか	① ジェスチャーで簡単な指示を理解して行動ができる	② 「おいで」や「×」のしぐさを理解して行動できる	③ 状況によっては適した行動ができる (椅子を出すと座れるなど)	④ できない	⑤	行政 保護者
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		言葉以外の方法でやり取りができるか。 もしくは理解できるか。	ジェスチャーで物の理解と行動の理解ができている。 (ここに座って/ごはんを食べるなど)	手招くことで来る。 ×を示すとやめる。	椅子を出すと、椅子を座る物と認識して座る。	全くわからない/反応がない/違う行動をとる。		
	視点	設問	選択肢					向き
10	(ことば)表出	お子さんは、どんな方法で自分の意思を伝えますか	① 言葉を使って伝える	② 身振りで伝える	③ 泣いたり怒ったりして伝える	④ 意思表示がない	⑤	行政 保護者
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		自分の意思を相手に伝える手段の有無。	主に言葉で伝える。	意思を伝えようとする方法が主に行動(行きたいところに手を引っ張っていく/ちょうだいなどの動作)や指さしなど。	意思を伝えようとはするが方法が不適切(奇声をあげるなど)。	意思を伝える気持ちがない/諦めている。 または意思を伝える手段がない。		
	視点	設問	選択肢					向き
11	(ことば)表出	お子さんは、どのくらいことばを使うことができますか	① 三語文以上が使える	② 二語文が使える	③ 単語が使える	④ なし	⑤	行政 保護者
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		言葉の数や単語での表現、会話の状況など。	単語を組み合わせて話す。	主に二つの単語で表現する。	単語のみで表現する。	選択肢通り。		
	視点	設問	選択肢					向き
12	(意思)表出	お子さんは、何か伝えたいことがあったときに、ことば以外の方法でも伝えようとしていますか	① どんな時も適切な方法で伝えようとする	② 伝えようとはするが伝わらないとすぐに諦める	③ 伝えようとはするが伝わらないと不適切な行動をする	④ 伝えない	⑤	行政 保護者
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		音声言語以外のなんらかの手段で諦めず、根気よく相手に意思を伝えるか。	伝えたい気持ちが強く、伝わるまであきらめずに色々な方法で表現する。	伝えようとはするが伝えたいという気持ちは弱い。 または気がそれやすい。 伝える手段はあるが伝える場面が限られている。☒	奇声を上げる/暴れる/自傷他害になる可能性が高い行動がある。	伝える意欲がない。 または伝えることができない要因がある。		
	視点	設問	選択肢					向き
13	(模倣動作)その他	お子さんは、真似をすることがありますか	① 真似をして遊ぶ	② 真似はするが頻度は少ない	③ 真似はするが独特であったり、興味のあるもの以外の真似はしない	④ ない	⑤	行政 保護者
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		人の真似をするか、またはその意欲があるか。	大人や友達の子供の真似をして遊ぶ。	真似をしようという意欲が低い。 または人への関心が薄い。	コマーシャルや電車音などのこだわりのあるものだけ真似をする。	真似をしようという意欲がない。 または真似をできない要因がある。		

2) 人間関係・社会性 編 [1 4 項目]

	視点	設問	選択肢					向き
1	愛着関係	慣れた人と離れた時に、どのような反応をしますか	①	②	③	④	⑤	行政 保護者 事業所
			納得出来ると落ち着く (ある程度不安を示しても可)	不安を示し、その人が戻ってくるまで落ち着かない	パニック状態になって、立ち直れない	全く反応しない		
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		家族や子ども本人と信頼関係ができている人が、目の前からいなくなった時の子どもの反応。 (中・高校生の場合、小さい時はどうだったかも聞く)	見通しが立っているのに、状況を受け入れて落ち着いて過ごせる理由を伝えられると、理解し納得出来る落ち着ける。 不安で泣いたり探したりしても、そばに居る人がなくさめると落ち着ける。	不安な状態のまま、ずっといつ会えるのか、いつ戻ってくるのかを気にしており、再会するまで落ち着けない。	大きく乱れ(泣き叫んだり、暴れる等)、再会してもなかなか立ち直れず、落ち着かない状態が続く為、離れることが難しい。	自分を常を守ってくれる相手の存在に気付いていず、離れても後追ひもなく不安にもならない。		
	視点	設問	選択肢					向き
2	(人との関わり)	親、友だち、支援者に関心を示しますか	①	②	③	④	⑤	行政 保護者 事業所
			そばに行く	離れた所から見ている	相手から関わってきたら反応する	全く関心を示さない		
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		親しい人(家族や子どもに直接接する支援者、友だち、仲間)を見た時、子どもが相手を意識するかどうか。 (中・高校生の場合、小さい時はどうだったかも聞く) (集団を利用している場合は、家族だけでなく、その集団の支援者やその他の子たちへの関心を問う)	自分から近寄っていく、関わろうとする、声をかける等、喜びを表現する。 安心する、リラックスする。	相手の存在は意識でき、嫌がったりすることはないが、視線を送る程度で関わり方が消極的。	相手に関わってきたら、喜んだり嫌がるなどの反応はするが、自分から関わろうとはしない。	相手に視線も向けない。 いてもいなくても変化がない。		
	視点	設問	選択肢					向き
3	(他者人との関わり興味)	親、友だち、支援者とやりとりしたり、相手からの働きかけに答えられますか	①	②	③	④	⑤	行政 保護者 事業所
			自分から働きかけたり、相手からの働きかけに反応する	ごく限られた人であれば反応する	自分から働きかけることはほとんどないが、相手からの働きかけには反応することもある	過剰に反応するか全く反応しない		
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		親しい人(家族や子どもに直接接する支援者、友だち、仲間)と子どもがどのようにやりとりしたり、働きかけに応じているか。 (集団を利用している場合は、家族だけでなく、その集団の支援者やその他の子たちへの関心を問う)	適度な距離感を保ちながら、相手に自分からやりとりを求めたり、相手からの働きかけに答えることができる。	特定の人であれば、関わりが持てる。(パターンの関わり方も含む)	自分から相手に働きかけることはほとんどないが、相手から関わられることに対しては、嫌がることはなく、反応することもある。	一方的に自分の思いだけ伝えようとしたり、相手が嫌がっても過剰に近づいていく。 逆に、相手が関わってきても、拒否したり、無関心でほとんど反応しない。		
	視点	設問	選択肢					向き
4	(ど遊びや遊び活動)	同年代の友だち2～3人どのように遊びますか	①	②	③	④	⑤	行政 保護者 事業所
			協力して一緒に遊ぶ	他児の真似をして遊ぶ	場の共有はするが、関わりはない	他児には関わらず、一人遊びをしている		
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		一緒に過ごしたことがある同年代の子どもたち2～3人と、どのように過ごしているか。	物の貸し借りができて、同じ物を共有できたり、協力して一つの物を作ったりする。	同じ空間で、相手が遊んでいる様子を見て、真似ることができる。一緒にいることは、嫌ではなく関わられると喜ぶ。	同じ空間で、平行遊びができるが、相手に関わることはない。相手が関わってきても拒否するか、どうしたら良いか分らず固まる。	他児がいてもいなくても同じように一人遊びをしている。		
	視点	設問	選択肢					向き
5	(小遊び集団遊び活動)	同年代の友だち5～10人の中で一緒に遊べますか	①	②	③	④	⑤	行政 保護者 事業所
			自分から中に入って遊べる	大人が橋渡しとなって支援したり、親しい友だちが誘えば中に入る	中には入らないが、そばで見ている	関心がなく入ろうとしない		
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		一緒に過ごしたことがある同年代の子どもたち5～10人と、どのように過ごしているか。	集団を意識して、自分から仲間に入り、一緒に遊びを楽しめる。自己主張もできるし、相手の意見も聞ける。	支援(相手との間に入って一緒に遊んだり、遊び方を教える等)があったり、誘われたりすると、仲間に入ることができる。 一緒に過ごすこと自体は楽しめている。	支援(相手との間に入って一緒に遊んだり、遊び方を教える等)や誘いがあっても仲間には入れず消極的だが、その場にはいられる。	一切仲間に入らず、一緒に遊べない。関心がなく、その場にも入れない。		

	視点	設問	選択肢					向き
6	(ルール遊びや活動)	ルールを理解して、友だちと遊べますか	①	②	③	④	⑤	行政 事業所
			勝敗、順番を理解して遊べる	大人の支援があれば遊べる	ルールは理解できないが、遊びに参加する意欲はある	ルールが理解できず、遊べない		
			解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		一緒に過ごしたことがある、同年代の子1～2人と、ルールがある遊びをしている時の子どもの様子。	勝敗が理解できて、結果を納得できる。 順番を守って遊べる。	支援（子どもが理解できる手段で、あらかじめルールを伝える、順番を伝える、負けた時の気持ちの解消法を伝える等）があれば遊べる。	支援があっても、ルールを理解することは難しい。 その場にいたがる（雰囲気を楽しむ等）。	支援があってもルールが理解できず、妨害行為（用具を触る、こわす、投げる、相手の邪魔をする等）がある。 その場にいられない。		
	視点	設問	選択肢					向き
7	(トラブル遊びや活動頻度)	同年代の子と一緒に過ごす中で、トラブルが起こることがありますか	①	②	③	④	⑤	行政 事業所
			ほとんどないか、あっても自分たちで解決できる	トラブルがあっても、大人の支援があれば解決できる	支援があっても、解決できる時とできない時がある	常にトラブルが起き、解決できない		
			解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		一緒に過ごしたことがある、同年代の子1～2人と過ごす中で、トラブルになった時の子どもの様子。	自分の意見を伝えたり、相手の意見を聞いて、友達と一緒に解決できる。 相手の気持ちを察して、合わせることができることで、トラブルなく過ごせる。	支援（子どもが理解できる手段で、あらかじめそこの過ごし方を伝える、双方の意見を聞く、解決方法をアドバイスする等）があれば、解決できる。	支援（その子が理解できる手段で、あらかじめそこの過ごし方を伝える、双方の意見を聞く、解決方法をアドバイスする等）があっても、解決できる時とできない時がある。	相手の意見は一切聞き入れず、自己主張を続ける。 常にトラブルが起きている。		
	視点	設問	選択肢					向き
8	(集団参加への状況)	集団活動に参加できますか	①	②	③	④	⑤	行政 事業所
			指示やルールを理解して、最初から最後まで参加できる	興味がある内容であれば、部分的に参加できる	支援があれば、その場にはいられる	全く参加できない		
			解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		現在所属している集団（保育所、幼稚園、認定こども園、学校、児童発達支援事業、放課後等デイサービス、放課後児童クラブ等）の自分のクラスの中で、担任（担当者）が設定した集団活動に参加している様子。	全体への指示で、活動の内容、やり方、ルールを理解して、最初から最後まで参加できる。	活動の内容に、興味関心があれば参加できる。 全部はできなくても、部分的に参加できる。	支援（子どもが理解できる手段で、内容を説明する等）があれば、理解できる部分には、参加できる。	支援があっても、集団活動には参加できない。 強い拒否を示したり、その場にいられない。		
	視点	設問	選択肢					向き
9	(他者集団への興味関心)	集団活動の中で、他児とやりとりしていますか	①	②	③	④	⑤	行政 事業所
			他児と一緒に行動し、必要に応じてやりとりしている	ごく限られた人とはやりとりしている	支援があれば、やりとりできる	全くやりとりしないか、相手を意識せず一方的		
			解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		現在所属している集団（保育所、幼稚園、認定こども園、学校、児童発達支援事業、放課後等デイサービス、放課後児童クラブ等）の自分のクラスの中で、他の子とやりとります	活動内容に合わせてやりとりをする。（ほめる、はげます、喜び合う、なくさめる、作戦を立てる等）	話したことがある（やりとりの経験がある）子であれば、やりとりする。 特定の子（決まった子）であればやりとりする。	支援（他児との間に入り、お互いの会話を橋渡しをする）があれば、やりとりが成立することもある。	他児に関心がなく、やりとりしない。 誰彼構わず、一方的に自分の話だけをして、相手の話は聞かない。		
	視点	設問	選択肢					向き
10	(同空間共有)	行事に参加できますか	①	②	③	④	⑤	行政 保護者 事業所
			自分から他児と一緒に指示に従って参加することができる	支援があれば参加できる	支援があれば、部分的に参加できる	活動内容が理解できず、その場にいられない		
			解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		現在所属している集団（保育所、幼稚園、認定こども園、学校、児童発達支援事業、放課後等デイサービス、放課後児童クラブ等）の行事に参加する様子。	練習時より参加でき、内容を理解して他児と一緒に動いたり、役割を演じたりする。	支援（子どもが理解できる手段で、活動内容、やり方等を伝える、困った時に援助する等）があれば、最初から最後まで参加できる。	支援（子どもが理解できる手段で、活動内容、やり方等を伝える、困った時に援助する等）があれば、すべてではないが部分的に参加できる。	支援があっても内容が理解できず、参加できない。 参加を拒否する。 その場にいられない。		
	視点	設問	選択肢					向き
11	(感情コントロール)	快、不快の気持ちをコントロールできますか	①	②	③	④	⑤	行政 保護者
			適度にコントロールできる	支援があるとコントロールできる	支援があってもコントロールできないことがある	全くコントロールできない		
			解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		不安、怒り、喜びなどの感情を、周囲との安定した関係を保てる程度にコントロールしているか。	気分の変動があっても、自分自身でコントロールしている。 適切なコーピング手段がある。	支援（子どもが理解できる手段で、不安定になった時の落ち着き方、落ち着ける場所や物の提供、共感する等）があれば、コントロールできる。	支援（子どもが理解できる手段で、不安定になった時の落ち着き方、落ち着ける場所や物の提供、共感する等）があっても、コントロールできる時とできない時がある。	支援（子どもが理解できる手段で、不安定になった時の落ち着き方、落ち着ける場所や物の提供、共感する等）があってもコントロールできず、周囲との安定した関係を保てない。		

	視点	設問	選択肢					向き
12	(感情 コント ロール の 可 否)	自分の気持ちを何らかの 方法で伝えますか	①	②	③	④	⑤	行政 保護者
			言葉やジェスチャー、絵カード 等で伝える	支援があると伝える	表情や態度を見て周囲が察する	表出が乏しいか、場に合ってい ないことが多く、周囲から見ても、 伝わりづらい		
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		不安、怒り、喜びなどの感情を 適切に周囲に伝えることができ ますか。	自発的に周囲に伝えられる。	支援（子どもが理解できる手段 で、気持ちの種類や強さの選択肢 を示す等）があれば、ある程度は 伝えられる。 ※絵カードやタブレットなど視覚 支援も含む。	気持ちの伝え方が身についてお らず、子どもの表情や態度、その場 の状況等から、見ている人が推察 する。	子どもの表情や態度、その場の状 況等からも子どもの感情が読み取 りにくい。 感情の変動が激しく、安定しにく い。		
	視点	設問	選択肢					向き
13	(やり と り の 他)	友だちとのやりとりで 困った時はどうしますか	①	②	③	④	⑤	行政 事業所
			自分から周囲に助けを求める	大人の支援があると、助けを求 められる	支援があっても、助けを求めら れる時と、求められない時がある	混乱してパニック状態になる		
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		一緒に過ごしたことがある同年 代の子とも過ごして困 った時の子どもの反応。	近くにいる人に自発的に困ってい ることを伝えることができる。	支援（子どもが理解できる手段 で、具体的な選択肢を示す等）が あると、伝えられる。	支援（子どもが理解できる手段 で、具体的な選択肢を示す等）が あっても、伝えられる時と伝えら れない時がある。	支援があっても、泣き叫んだり、 暴れたりして伝えることができな い。		
	視点	設問	選択肢					向き
14	(集 団 帰 属 の 他)	自分が属している集団を 意識できますか	①	②	③	④	⑤	行政 事業所
			意識できる	支援があれば意識できる	集団に属したいという気持ちは あるが、自分が属している集団 が分からない	全く意識できない		
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		現在所属している集団（保育 所、幼稚園、認定こども園、学 校、児童発達支援事業、放課後 等デイサービス、放課後児童ク ラブ、家族、住んでいる地域 等）が理解できているか。	通っている場所の名前、自分のク ラス、担任名、住んでいる地域、 男女の区別等を聞かれると、正し く答えられる。	支援（子どもが理解できる手段 で、選択肢を示す等）があれば、 答えられる。	集団に自分から戻ることはでき るが、大人の支援（子どもが理解 できる手段で、選択肢を示す等） があっても、所属している集団名 が分からない。	支援があっても、全く分からな い。		

3) 認知・行動 編 [1 1 項目]

	視点	設問	選択肢					向き
1	身 体 知 覚	自分と周りとの距離感や大小 の認識がうまくできず、移動 する時に物や人にぶつかった り、転んだりすることがあり ますか	①	②	③	④	⑤	行政 保護者 事業所
			ほとんどない	時々ある	頻繁にある			
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		自身の体のイメージを掴めてい るか。 身体能力に問題がないにも関わ らず日常動作に不都合が生じて いないか。	ない、または思い当たらないくら い頻度が少ない。	思い返すとある、または一定の ペースで事象を確認している（週 1回、月1回など）。	頻繁に起こり、本人や養育者に強 い困り感がある。			
	視点	設問	選択肢					向き
2	(認 知 の 幅 偏 り)	物、人、物事などにこだ わりがありますか	①	②	③	④	⑤	行政 保護者 事業所
			ほとんどない	あるが、日常生活に支障はない	あり、日常生活に支障がある			
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		特定の人物の介入が必要かどう か。 特定人物の介入が必要かどう か。 同じ衣服しか着ない、同じもの しか食べない等といったこだわり があるかどうか。	心当たりがない、特にこだわりと 感じることはない。	特定の物、人、物事への執着は一 部みられるが、本人、養育者とも に困り感はない。	本人あるいは養育者が、こだわり に対して困り感がある。			

	視点	設問	選択肢					向き
3	(こ だ わ り 有 無 ・ 環 境)	次の行動に移る際、気持ちや行動の切り替えに必要な工夫がありますか	①	②	③	④	⑤	行政 保護者 事業所
			スムーズにできる	声掛け等が必要	場面の切り替えが必要	特定の物や人が必要	切り替えの場面は、常に拒否的である	
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		物事(特定の遊びや行動など)に固執し、次の行動に自発的に移れないことがあるか。ある場合、どういった介入が必要か。やりたいことを止められる、思い通りにできない等で気持ちが不安定になることがあるか。ある場合、どういった介入が必要か。	特別な工夫が必要でなく、気になるような時間もかからず行っている。	声かけや視覚的な手がかりを利用することでできる。 (該当する際は次項目も確認する。) ※パーテーションやボード・ベルなどの環境配慮も含む	場面や環境を変えることでできる。 (該当する際は次項目も確認する。)	決まった人物の介入や、タオルやぬいぐるみ等、安心できる物を手元に置くことでできる。 (該当する際は次項目も確認する。)	決まった人物の介入や、タオルやぬいぐるみ等、安心できる物を手元に置いても、切り替えが苦手で、対応に苦勞する。	
	視点	設問	選択肢					向き
4	(こ だ わ り 有 無 ・ 時 間)	切り替えまでに時間はかかりますか	①	②	③	④	⑤	行政 保護者 事業所
			スムーズにできる	5分以内にできる	10分以内にできる	10分以上かかる		
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		前記の問いで回答した工夫を行った場合に、次の行動に移ったり気持ちを収めるまでにどの程度の時間が必要か。	前記の工夫をすれば、日常生活に支障なく切り替えられる。	スムーズではないが、日常生活に大きく影響せず切り替えられる。	特定のこだわりを活かしても、なかなか気持ちや行動の切り替えが難しい。	特定のこだわりを活かしても、なかなか気持ちや行動の切り替えが難しい。		
	視点	設問	選択肢					向き
5	運 動 企 画	手遊びや体操などで、手指や手足・体の動きの真似をしますか	①	②	③	④	⑤	行政 保護者 事業所
			概ね真似をする	部分的に真似をする	真似は難しいが応じる	手遊びや体操には応じない		
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		歌や音楽に合わせて手足や体の動きを真似することができるかどうか。 年齢や興味関心の有無への配慮も必要。	完璧にできていなくても、年齢相応にできている場合。	真似ができることはあるが、自分なりに動かし楽しむ方が多い場合。	見本の通りに動かせていないが、動かそうとする意欲はある場合。 また、見本を真似しようとせず自由に手指や体を動かす場合。	苦手意識があり、やりたがらなかったり、手遊びや体操に興味を持たない場合。		
	視点	設問	選択肢					向き
6	危 険 回 避 行 動	危険なことがわかり、気をつけることができますか	①	②	③	④	⑤	行政 保護者 事業所
			自発的にできる	声かけ等でできる	身体の制止でできる			
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		外出先や屋内で危険な物や場面に気付く、それ避ける行動ができるか。	特に周りで注意しなくても、自分で危険な物や場面を理解して避けることができる。	一人では難しいが、養育者等が声かけや視覚的な手がかりで危険を伝えることで注意ができる場合。	体を抑えたり手を引いたりすることが必要。			
	視点	設問	選択肢					向き
7	注 意 力	見聞きしたり物事に取り組む時に、気が散りやすく集中できないことがありますか	①	②	③	④	⑤	行政 保護者 事業所
			ほとんどない	部分的にある	よくある			
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		他者の話をきく時や課題に取り組む時に周りの様子が気になったり、立ち歩いたり、集中できなくなる。	特に日常生活で気になることはない。本人も周囲も困り感がない。	目につくところに気になるもの(玩具、テレビ、恋など)がある、初めての場所である、興味の薄い内容である等、場合によっては集中できないことがある。	集中することが難しく、注意が逸れやすい。			
	視点	設問	選択肢					向き
8	情 緒 的 安 定	不安が強く日常生活に支障がでることはありますか	①	②	③	④	⑤	行政 保護者 事業所
			ほとんどない	ある-対処方法がある	ある-対処方法は特にはない			
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		感覚過敏やこだわりなどが原因で、日常生活に支障が出るほどの不安が生じることがあるか。	不安になることがない、またはあっても日常生活に支障はない。	特定の場所への移動や物の使用により不安を和らげることができる。	いろいろな工夫しても不安の短期化に結び付かない。または一定の時間をかけて不安が自然的に解消されるのを待つしかない。			
	視点	設問	選択肢					向き
9	(予 測 理 解)	見通しを立てて、行動をすることが出来ますか	①	②	③	④	⑤	行政 保護者 事業所
			できる	声かけでできる	視覚的な情報があればできる	その他の工夫が必要		
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		一日の生活の流れを理解して行動ができるか。一連の活動において、先を予測して順序立てた行動がとれるか。	自発的に行動でき、介入しなくても日常生活に支障をきたさない。	わからない時もあるが、次の行動を声掛けすればそれに従って行動することができる。	声掛けだけでは難しいが、次の行動につながる見本や写真などの視覚的な手がかりがあれば、それを見て行動することが出来る。	声かけや視覚的な手がかりのみでは不十分で、その他の介入を要する。(例えばメロディやアラーム、体に触れて教える等)		

	視点	設問	選択肢					向き
10	(急な変化対応) 見通し	急な予定変更に対し、対応できますか	①	②	③	④	⑤	行政 保護者 事業所
			スムーズにできる	声かけでできる	視覚的な手がかりでできる	その他の工夫が必要 対応できない		
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		一日の流れの中で、当初の予定に変更が生じてても理解して対応できるか。一連の活動の中で、行程やゴールに変更が生じてても対応できるか。	予定変更を理解し、自発的に対応できる。	最初の指示に対して対応できない時もあるが、次の行動を個別に声掛けすればそれに従って行動することができる。	声掛けだけでは難しいが、次の行動につながる見本や写真などの視覚的な手がかりがあれば、それを見て行動することが出来る。	声掛けや視覚的な情報だけでは不十分で、例えばメロディやアラーム、体に触れて教えること等、他の工夫も必要。 急な予定変更が伝わり難く、混乱してパニックに状態になったりする。		
	視点	設問	選択肢					向き
11	その他	突然、自分や相手に対して乱暴な言動をとる時がありますか	①	②	③	④	⑤	なし
			ほとんどない	ある-対処方法がある	ある-対処方法は特にはない			
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		パニックなど、突発的な出来事に対して感情が抑えられずに相手に暴力をふるったり暴言をはいてしまうことがあるか。また自傷行為をしてしまうことがあるか	感情が抑えられなくなることはない、またはあっても日常生活に大きな支障はない。	特定の場所への移動や物の使用により、乱暴な言動が長期化しない。または、気持ちを鎮めることができる。	いろいろな工夫しても乱暴な言動の収束にすぐは結び付かない。または一定の時間をかけて落ち着くのを待つしかない。			

4) 感覚・姿勢・運動 編 [1 4 項目]

	視点	設問	選択肢					向き
1	(目感覚動き)	動いているものを目で追うことができますか	①	②	③	④	⑤	行政
			見続けることができる	視線がそれながらも目で追うことができる	すぐにそれてしまう			
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		目的に応じて適切に眼球運動ができる。	視線が一定に動いている。	眼球運動のぎこちなさがある。	斜視、眼振、複視がある。あるいは眼球運動に異常がある。もしくは全盲や弱者などがあり機能的に注視や追視が難しい。			
		設問	選択肢					向き
2	(聞こえ)	物の音、人の声が聞こえますか	①	②	③	④	⑤	行政
			聞こえる	補聴器などの補助装具があれば聞こえる	聴き取れない音がある。または過敏で補助装具が必要である	音や声を聞き取ることは難しい		
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		発達障害ではなく聴力が確認できるかの設問。	聴力に問題がない。	補助装具を使用することで一定の聴力を保つことができる。	聴力になんらかの問題がある。	補助装具などを使用しても、機能的に音や声を聞き取ることが難しい。		
		設問	選択肢					向き
3	(味覚)	偏食がありますか	①	②	③	④	⑤	行政
			ない	調理法や味付けの工夫、周囲の働きかけがあれば食べられる	調理法によっては食べる	偏食が激しく生活に支障がある		
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		味の感覚の程度。味覚の過敏さ、鈍麻。	バランスよく栄養摂取している。	辛さ、甘さなど特定の感覚の感度が極端。	特定の食材や味付けであれば食べられるが、種類が少ない。	健康を損ねる可能性が高く、医療との連携や介入を検討。		

		設問	選択肢					向き
4	(感覚器官)	以下のような特定の行為・行動を嫌がることがある。または、痛みや熱さなどに強いのか	①	②	③	④	⑤	行政
			以下のいずれの行為も特に嫌がらない	服や帽子など特定のものを身につけることをいやがる、あるいはこだわる。服が濡れるのをいやがる。または、のりやスライムなど特定の感触のものを触ることをいやがる。	上記②のような状態がみられるために、着替えに時間がかかる等生活に支障がある。または、散髪や爪切り、歯磨きなどをいやがる。または、こけたり、熱いものを触っても泣かない。	上記③のような状態のために、日常生活に著しい支障がある		
			解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		同年齢の他児と比べて特に強く嫌がる、あるいは不自然なほどに痛みや熱に強い等を確認する。	選択肢通り。	いやがるが、日常生活にはあまり支障がない状態。 服や帽子など特定のものをいやがる。 服が濡れるのをいやがる。または、のりやスライムなど特定の感触のものを触ることをいやがる。	日常生活への支障の程度によって③と④をわける。 着替えに時間がかかる等生活に支障がある。または、散髪や爪切り、歯磨きなどをいやがる。または、こけたり、熱いものを触っても泣かない。	選択肢通り。		
5	(口腔機能)	食べ物をよく噛んで飲み込むことができますか	①	②	③	④	⑤	行政
			食物を噛んで飲み込むことができる	やわらかい食べ物を、押しつぶして食べれる	食べ物が近づいたら口を開けて取り込み、口を閉じて飲み込める	哺乳瓶などを使っている。口から食べることが難しい		
			解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		口腔機能の状況を確認する。咀嚼・嚥下の状態、食材の形状による違いがあるか。構造上の課題があるか。	前歯で噛みとり、奥歯でかみつぶせる。 調理方法など特別な配慮を必要としない。	食材や調理方法を工夫している。 舌や歯茎で食物を押しつぶして食べれる。	口唇にスプーンをあてると開口し、口唇を閉じて飲み込むことができる。 丸呑み。 口蓋裂などへの対応が必要である。	口蓋裂・咬合不良・噛みこみなどがある。 栄養摂取は、胃ろうなどの経管栄養で行っている。		
6	(姿勢の保持)	一人で安全に立っておくことができますか	①	②	③	④	⑤	行政
			一人で安全に立っておける	短時間なら、立っておける	つかまり立ちができる	立つことが難しい		
			解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		日常生活において、安全に立つことができるかを確認する。 立位は、足をついて直立位を保つこと。 体幹（からだ）と下肢の位置は問わない。	立って、追視をしたり、手を伸ばして物がとれる。 バランスが崩れそうになったら、ステップを出してバランスを保てる	バランスが不十分である。持続時間が短い。 立って、追視をしたり、手を伸ばすことはできない。	つかまる、壁にもたれる、補助具を使う、介助してもらうなどが必要である。	足が床につけられない。足でふんばれない。		
7	(姿勢の保持)	一人で座って、手を使って遊ぶことができますか	①	②	③	④	⑤	行政
			一人で座って、手を使って遊ぶことができる	手で支えて、座ることができる	からだの一部を支えあげると、座れる	座位を取るには、全身を支える必要がある		
			解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		一人で座位になり、遊べるか確認する。 座位は臀部が床に接地している。横座り、割座、胡坐、投げ出し座りなど。	自分で座位に起き上げる。 手を使って遊べる。	介助者が座位にセットしてあげる必要がある。 座位を保つには、手の支えが必要である（両手や片手で自分で支える）。 正座、投げ出し座り、横座りなどできる方法でよい。	肩、胸、腕など体の一部を介助者に支えてもらう必要がある。 からだの一部を支えたり、支えるための工夫があれば座れる。	頭の支えを必要とする。 頭がすわっていない。 後ろにもたれた姿勢で座る。		
8	(手指動作の基本的技能)	手指の動作についてお尋ねします	①	②	③	④	⑤	行政
			シャツのボタンをはめることができる。あるいは、紙をもってはさみで切ることができる	ボロ口など、小さくつぶれやすいものをつまむことができる	積み木を積みめすか／積み木を詰める	おもちゃを握ってふる／おもちゃを握って振ることができる	おもちゃをふらない	
			解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		手指動作について確認する。つまむ、はめる、適切な方向に動かす、両手を協調して使う、ものに合わせて力を調整するなどができるか確認する。	服を着てボタンをはめられる。 小さいものをつまんで、両手で協調動作ができる。 片手で紙をもち、はさみで切ることができる。	小さいものをつまむ。 つぶれないように力を調整することができる。	積み木を握って、積める。 握り続けられる。	ガラガラを握ってふる。 パチを握り、太鼓をたたく動作ができる。	おもちゃを手に触れさせても、握らない。 握るがすぐに離す。 おもちゃは、握ったまま口に入れる。	

		設問	選択肢					向き
9	(目と手の協応の技能)	決められた場所にシールを貼ることができますか	①	②	③	④	⑤	行政
			一人でできる	貼る場所を指さしすれば、できる	環境の配慮や工夫があればできる	動作の介助があればできる		
		解説	解説	解説	解説	解説	解説	
		目から入ってきた情報を手を使って適切に処理することができるかを確認する。 シールを貼る場所を目でとらえ、手を使ってその場所にシールを貼るという作業ができるかなどを確認する。	自分一人で、決められたところに、シールを貼りつけることができる。 目から獲得した情報に対して、手を使って適切な処理をする。	口頭での指示や介助者が貼る所を示せば、行うことができる。	貼る所を大きな○にしたり、色付けをするなど、目からの情報を強くする行うことができる。	手添えをするなど、介助をすることで行うことができる。		
10	(目と足の協応の技能)	設問	選択肢					向き
		階段昇降・ジャンプ・ケンケンができますか	①	②	③	④	⑤	行政
			ケンケンが3回以上できる	交互に足を出して階段を上り、下りできる	両足同時にジャンプし、転倒せずに着地できる	階段は、同じ足を先に出してのぼる	どの動きもできない	
		解説	解説	解説	解説	解説	解説	
		手の支え無しで行い、選択肢の行為ができるか確認する。	左右どちらかの足でできれば良い。	足の着く位置を目で見て確認しなくても、上ることと下ること両方がスムーズにできる。	選択肢通り。	交互に足が出ない。	階段昇降・ジャンプ・ケンケンができない。	
11	(不器用さの技能)	設問	選択肢					向き
		じゃんけんで、グー・チョキ・パーのいずれについても以下のことができますか	①	②	③	④	⑤	行政
			相手に求められたタイミングで（相手の掛け声にあわせて）いずれかを自分で選んで出すことができる	タイミングはややずれるが、自分で選んで出すことができる。 あるいは、3種のうちいずれかは出すことができる	相手が出したものと同じものをタイミングはずれるが出すことができる	できない		
		解説	解説	解説	解説	解説	解説	
		勝ち負けの理解については、ここでは問わない（認知面および社会性の問題も含むため）	手指操作にくわえて、リズムをあわせることができるかどうかを確認する。	①に対して、リズム合わせができていない場合。あるいはチョキができないなど特定の手指操作が苦手な場合。	模倣の段階。	選択肢通り。		
12	(移動の基本的技能)	設問	選択肢					向き
		一人で歩くことができる	①	②	③	④	⑤	行政
			一人で歩くことができる	一人で歩くことができるが、近位で見守りが必要	一人で歩くことができるが、手をつなぐなどの介助や杖・保護帽などの補助具が必要	一人で歩けない		
		解説	解説	解説	解説	解説	解説	
		装具があれば自立して歩ける人はどこに入れるのかの議論になった。 ①と考えるのか②あるいは③と考えるのか（この項目に限らずこの指標全体で統一する必要がある）。	補装具が身体に合っていて自立歩行に支障がない状態。	安定性やバランスの面で不安がある状態。 補装具に慣れておらず、体の使い方にぎこちなさがある状態や補装具を使い始めて間もない場合。	②よりも介助が必要な状態。 補装具をつけているが、転倒が度々ある状態。	車いすを使用している。		
13	(移動の基本的技能)	設問	選択肢					向き
		一人で走ることができる	①	②	③	④	⑤	行政
			一人で走れる	一人で走れるが、近位で見守りが必要、あるいは早歩きから走り始めの段階にある	一人で走れない			
		解説	解説	解説	解説	解説	解説	
		「走る」とは、両足が床から浮いている時間がある状態をいう。	選択肢通り。	安定性やバランスの面で不安がある状態、あるいは歩くのは可 で今後「走る」に移行しようとしてつつある段階。	選択肢通り。			
14	(移動の基本的技能)	設問	選択肢					向き
		動いているとき、自らの意志で、あるいは他者の指示で動きを止めることができるか 止まる動作をスムーズに行えるか	①	②	③	④	⑤	行政
			必要に応じて歩いたり止まったりできる	動きを止めることはできるが、静止姿勢を保つことができない（止まる時の動作が不安定）	自分の意志では動きを止められるが、他者の指示では動きを止められない（止まらない）	「静止する」ことが理解できない		
		解説	解説	解説	解説	解説	解説	
		止まる動作の身体的な機能について確認する。	自らの意志でも他者の指示でも動く・止まるをコントロールできる状態。	その場にとどまることはできるが、体の一部が動いている（揺れている）などの状態。または、物につかまると止まれる、介助があれば止まっていられる等の状態。 止まる際に転倒することがある。（見守りが必要） 不随意運動や杖を使用していて長く止まってられない場合。	いわゆる多動の状態を想定。 物につかまったり、介助があれば止まれる。 車いすを使用している。	選択肢通り。		

5) 健康・生活 編 [12項目]

	視点	設問	選択肢					向き
1	(食生活・偏食)	偏食やアレルギー等がありますか	①	②	③	④	⑤	行政
			特になし	偏食があってもことば掛けによって食べられる	偏食で食べられないものがある	アレルギーがあり、食事制限がある／偏食で食べられるものが限定されている		
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		この項目は、偏食やアレルギーに関する設問です。 食べ物に関して、色・におい・噛んだ感触・特定のものは食べなどの感覚について、またアレルギーの有無など配慮の状況を確認します。 アレルギーとは、医師の診断に基づくものです。 離乳食が完了していない場合は④と判断します。	特に配慮を必要とせず、偏食・アレルギーなく食事を楽しむことができます。	偏食があっても、大人等のことば掛けや働きかけで興味の幅を広げることができる状況です。 量を減らすなどの調整をすれば、食べることが出来る状況です。	偏食等があり、苦手な食材は口に入れない、または入れても出す状態です。それ以外のものは食べることが出来る状況です。	特定の食材にアレルギー（宗教食含む）があり個別に調理・準備が必要な状況がある。 これしか食べないなど食べるものが限定されている。 食事を摂ろうとしない。		
		設問	選択肢					向き
2	(食生活・手伝い)	食事について手伝いが必要ですか	①	②	③	④	⑤	行政
			一人で食べられる	見守りやことば掛けが必要	一部手伝いが必要	常に手伝いが必要		
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		食事の際の環境の調整がどのくらい必要を確認します。 食べる場所・人・時間・食具・食事の形態など体の成長発達と情緒面の成長でどの程度の手伝いが必要を確認します。 過食、拒食、異食行為、反すうなどは④とします。 3歳未満児は③～④とします。 場所（自宅と園・学校等）が違ふことによって、食べる、食べない等がある場合は、食べない状況を見るに判断します。	あまり食べこぼしもなく、箸（エジソン箸などの特殊箸を除く）を使用し食事や食事を自分で食べることが出来る状況です。 年齢相応の食形態で、1日3食食べる習慣がある状況です。	窒息や危ない行動をしないかなど見守りや食事の進捗状況で、ことば掛けが必要な状況です。 給食を皆と一緒に食べることが出来る状況です。	食材を小さくしたり、時折食材を口に運ぶ手伝いを要するなどの状況です。スプーンやフォークを使い食べる状況です。	食事の形態を柔らかくしたり、つぶしたりするなど手助けが必要な状況。栄養補助のミルクなどがある。手づかみや食べこぼしが多い。窒息や椅子からの転落がないかなど常に個別の対応が必要な状況です。 食事に関する介助を払いのける・食器や食材を投げるなどの行為がある。 集団での食事が難しく、個別の環境設定が必要な状況です。		
		設問	選択肢					向き
3	(排泄)	一人でトイレに行き、排泄ができますか	①	②	③	④	⑤	行政
			一人でトイレに行き、排泄ができる	見守りやことば掛けで、トイレで排泄ができる	一部手伝いが必要	常に手伝いが必要		
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		排尿・排便に関する行為について、支援が必要かどうかを確認します。 排泄には、尿意便意の表出があるか、トイレでの排泄に関する一連の動作がどの程度できるのか、便座への昇降や姿勢の保持などに介助を要するのか、清潔に対する認識はどの程度か聞き取る必要があります。 3歳未満児は③～④とします。	尿意・便意を感じとり、トイレでの排泄・ドアの開閉・着衣を下す・便座への昇降・姿勢の保持・排泄・ふき取り・体勢の変換・着衣を上げる・姿勢の保持・流水・手洗い・ドアの開閉・手洗いなど一連の行為を一人ですることができる状況です。	①の行動をことば掛けで行動し、見守りで行うことができる状況です。	大人がある程度の時間間隔で誘導することでトイレ・オマル等で排泄することができるが、拭き取り等は介助が必要な状況です。 「おしっこ」「うんち」「トイレ」・ジェスチャーなど意思表示もしくは介助を求めることができます。 決まった場所ですしか排泄をしなかった場合で、例えば、決まった便器でしかできない、自宅のトイレ以外ではできない等を含みます。	排泄に関して譲れないルールがある、介助があることに対して拒否がある、排泄物を直接手で触ったり、排泄する場所でないところでの排泄があるような状況です。 導尿・自己導尿の見守り・ストーマや摘便などの医療的介助が必要、おむつや尿取りパットを使用、自立しているがオムツを着用したがる、頻尿がある、月経の対応に手伝いが必要な場合を含みます。		
		設問	選択肢					向き
4	(睡眠)	十分な睡眠がとれていますか	①	②	③	④	⑤	行政
			夜間8時間以上の睡眠がとれている	入眠や起床に時間がかかる	夜中に起きることがある	夜間に注意が必要		
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		就寝時には布団に入り、朝までぐっすり眠ることができるかどうかを確認します。 寝起きもよくすっきりしているなどのリズムが確保できているか確認します。	布団に入って30分程度で寝つき、夜間8～10時間通して睡眠をとることができ、寝起きもよい状況です。	1時間以上寝付きに時間がかかる。または寝起きに30分以上かかる。 ある程度の睡眠をとることができている。夜間に覚醒しても30分以内には再び寝付くことができる。寝起きも悪くない状況です。	眠ることに対する認識があまりない。日中に眠ってしまう（未就学児は除く）または、だるそうにしている。眠りが浅く、夜泣きがある。寝起きの際に泣くなどの不安定さがある。音に敏感で寝てすぐ目が覚める。1～2時間の睡眠を繰り返す状況です。	眠ることに対して抵抗がある、体を横にすることが難しい、睡眠に関して処方薬がある、扁桃腺が大きく睡眠時の無呼吸があるなど呼吸状態の確認が必要等の状況です。		

		設問	選択肢					向き
5	(体温調整)	気温に合った衣服を着ることができますか	①	②	③	④	⑤	行政
			気温に合った衣服を着ることができる	見守り、ことば掛けにより気温に合った衣服を着ることができる	気温に合った衣服を着ることを嫌がる	環境調整に配慮が必要		
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		気温に合わせて衣服を調整し、体温の調整をすることができるか確認します。体温の調整には発汗・排尿・飲水などの水分摂取状況も体温調節には大きく関わってくる要因です。衣服の調整ができて、水分が摂れない時は④とします。	暑い、寒いなどを感じ自分で衣服の調整ができる、のどの渴きを感じ、自ら水分を摂取することができる状況です。	ことば掛けで衣服を脱ぐ・着るなどの調整をすることができる状況です。	衣服の形態や感触に対するこだわりや過敏さなどで衣服による体温調整が難しい状況です。	十分な水分量をとらない、または拒否する、体温・気温の変化を感じ取ることが難しい、室温など本人の取り巻く環境を調整する必要がある状況です。（温度差等によりてんかん発作等が起きる。）		
		設問	選択肢					向き
6	(その他の生活リズム)	家庭の養育状況は望ましいですか	①	②	③	④	⑤	行政
			家庭の養育状況は望ましい	家庭の養育状況に課題はありそうだが、福祉サービス等社会資源や制度に繋がっている	新たな社会資源や制度に繋げる必要がある	家庭の養育状況に大きな課題がある		
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		保護者に質問するのではなく、聞き取りの内容や様子により、判断してください。また、行政内で把握している情報も加味して判断してください。子どもが家庭内で安心安全に生活できている状態を判断します。	望ましい状況とは、こうあるべきという考えではなく、②から④の状況がない場合に判断します。	福祉サービス等社会資源や制度に繋がっていることで養育状況は改善または維持されている状況です。家族が居て、関係機関を利用しているても関係性が悪い状態なら、③とします。	キーパーソン（主たる養育者）が不在または機能していない状態で、社会資源や制度に繋げる必要がある状況です。	金銭的な課題（生活保護や養育者の浪費、借金等）がある、養育者に配慮（障害等）が必要である、う歯が多い、衣服、持ち物が不衛生などから、ネグレクト等が疑われる等の状況です。		
		設問	選択肢					向き
7	(生活習慣)	入浴について手伝いが必要ですか	①	②	③	④	⑤	行政
			一人で入浴できる	見守りやことば掛けがあればできる	一部手伝いが必要	常に手伝いが必要		
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		入浴に関する一連の行為について、支援が必要かどうかを確認します。※一連の行為とは、入浴の脱衣から着衣までの行為をいいます。場所が違うことによって、できる、できない等がある場合は、できない状況を基に判断します。入浴への意欲・清潔意識については、長期的な自立に向けた項目として重要ですが、ここでは、意欲はなくとも、ことば掛け等で入浴できる場合は②とします。年長児以下は見守りが必要なため、選択肢を③～④とします。	何らかの支援がなくても、「一連の行為」の全てを自分で行うことができる状況です。	直接的な介護・支援は必要なくとも、ことば掛けや見守りが必要な状況です。感覚過敏・洗体・洗顔が苦手・シャンプーなどへのこだわりがありますが、概ねことば掛けで一連の行為ができる状況です。	「身体や髪、顔を洗う・拭く」行為が不十分のため、大人等が部分的に手伝いをしています。感覚過敏があり、洗髪や洗顔、洗身に拒否を示すため、対応が必要です。石鹸やシャンプー、タオルなどにこだわりがあり、個別の配慮が必要な状況です。	「一連の行為」の全てを自分で行えないため、全面的（常時）に支援（見守りやことば掛け等の支援を含む）が必要、「一連の行為」の目的や内容を理解していない状況です。「身体や髪、顔を洗う・拭く」行為が不十分のため、支援者等が対象者自身の行った箇所を含めて全面的にやり直しが必要です。医療上の必要により入浴を禁止されており、配慮しながら清拭が必要な場合やその他の事情で清拭しか行えない状況です。		
		設問	選択肢					向き
8	(洗顔習慣)	顔を自分で洗うことができますか	①	②	③	④	⑤	行政
			自分で顔を洗うことができる	見守りやことば掛けで洗顔をすることができる	大人と一緒に顔を洗う行為をすることができる	顔を洗うことは難しい		
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		自ら洗顔ができ、清潔を保つことができているか、またその意味を理解して行動しているか確認します。年長児以下は③～④とします。	皮膚状態もよく、清潔を保つことができているか、どのような時に自ら進んで顔を洗うかを確認します。「顔を洗ってきた！きれいにしとさっぱりした。」などの発言があるかも解釈の一つです。	ことば掛けや見守りできれいに顔を洗い、清潔を保つことができる状況です。	濡らしたタオルなどを準備すると一部顔を拭くことができ、顔の一部を水につける又は濡らすことができる状況です。	大人が濡らしたタオルで顔を拭くなどの支援を要する、自らの力では顔の清潔を保つことが難しい、激しく抵抗する、水に対する過敏さがあり顔を洗うことが難しい等の状況です。		

		設問	選択肢					向き
9	(歯磨き)	歯磨きを自分ですることができますか	① 自分で歯磨きをすることができます	② 見守りやことば掛けで歯磨きをすることができる	③ 歯磨き、仕上げ磨きが必要である	④ 歯磨きをすることが難しい／または極端に嫌がる	⑤	行政
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		歯磨きの目的を理解して、自ら取り組むことができるか、清潔を保つことができるか、健康な歯を保つことができるかを確認します。年長児以下は③～④とします。	時間を見て1日3回を目途に歯磨きをすることができる、歯磨きの目的を理解して自ら取り組むことができる、口腔内の清潔を保つことができる、磨くこと自体もおおむねできる等の状況です。	見守りやことば掛けがあれば、自らきれいに歯磨きができる状況です。	自分で歯磨きをしようとはしますが、大人が仕上げ磨きをする必要がある状況です。	感覚の過敏さがあり、歯ブラシを口腔内に入れることが難しい、欠歯がある、歯磨きに自分のルールがあり手伝いを受け入れない、歯磨きに激しく抵抗をする、歯科受診に多くの労力を伴う（大学病院等で、口腔内レントを使用しての治療・全身麻酔など）などの状況です。		
		設問	選択肢					向き
10	(清潔行動)	必要に応じて手洗いや洗顔、髪をとく、爪切りなどができますか	① 手伝わなくてもできる	② 見守りやことば掛けがあればできる	③ 一部、手伝いがあればできる	④ 常に手伝いが必要	⑤	行政
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		清潔を保つ為の一連の行動、準備に手伝いが必要か、清潔行動とは手洗い、洗顔、髪をとく、爪切りをできるかどうかを確認します。また、汗をかいた時の対処行動（汗を拭く、着替えるなど）ができるかどうかを確認します。年長児以下は③～④とします。	外出時にはハンカチ、ティッシュ、マスク等を自分で準備して持ち歩き、必要に応じて使うことができる、手洗いの一連の動作が自分ででき、洗面台の後片付けまでできる、髪の毛や爪を整えることが自分でできる、皮膚状態もよく、清潔を保つことができる、どのような時に自ら進んで顔を洗うか理解できている等の状況です。	ハンカチ、マスク等の準備、持ち歩き、使用にはことば掛けが必要、手洗いや洗顔等の一連の動作は自分でできるが、忘れたり、不十分さがある為、ことば掛けが必要な状況です。	ハンカチ、マスク等が準備してあれば、持って行くことができる、髪の毛を整える、爪を切る、鼻をかむ等は手伝いが必要、濡らしたタオルなどを準備すると一部顔を拭くことができる、顔の一部を水につける又は濡らすことができる等の状況です。	自らの力では清潔を保つことが難しく全面的な手伝いが必要、または激しく抵抗する、大人が濡らしたタオルで顔や手を拭くなどの支援を要する等の状況です。		
		設問	選択肢					向き
11	(着脱)	着替える時に手伝いが必要ですか／また、汚れた時や濡れた時に自ら着替えることができますか	① 手伝わなくてもできる	② 見守りやことば掛けがあればできる	③ 一部、手伝いがあればできる	④ 常に手伝いが必要	⑤	行政
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		衣類や靴の着脱動作で手伝いが必要か、衣類や靴の形状、素材の選択に配慮が必要か、汚れた際に着替えができる、定期的な古くなった服などをかえることができるかどうかを確認します。3歳未満児は③～④とします。	衣類の前後を間違えることなく着用したり、靴の左右を間違えることなく履いたりできる、衣類や靴、靴下が汚れた時や濡れた時に自分で気付いて着替えることができる、TPOや気候に合わせた衣類を選択するには、確認が必要等の状況です。	衣類の前後や靴の左右を間違える、ボタンをかけ間違えることがあり、ことばかけや見守りが必要、TPOや気候に合わせた衣類を選択するには、確認が必要等の状況です。	ボタンやファスナー等がある場合は手伝いが必要、衣類の前後や靴の左右がわかるように目印をつけたり、置いたりすることが必要な状況です。	一人で衣類を着たり、靴を履いたりすることが難しく、脱ぎ着する時にはほとんど手伝う、衣類が濡れると場面を問わず人前で衣類を脱ぐことがある、感覚の過敏さから衣類の着用や靴下、靴を履くことを極端に嫌がったり、素材が限定されたりする、また感覚の鈍感さから衣類や靴、靴下が濡れたり汚れたりしても、着替えようとせず、手伝いが必要な状況です。		
	視点	設問	選択肢					向き
12	(その他)	整容の意識を持ち、必要に応じて整える事ができますか	① 自らが付き整えることができる	② ことば掛けがあれば、気が付き整えることができる	③ 整えることに手伝いが必要	④ 整容意識がなく、整えることを嫌がる	⑤	行政
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		整容動作（歯磨き、洗顔、整髪など）や身だしなみ（下着が出ないように整えるなど）を含めた意識が持っているかどうかを確認します。また、出掛け先などで衣服や髪などが乱れた際に、自分で気づき整えられるか確認します。例えば、トイレに行った後にシャツなどを入れるなどの意識があるかどうかなど。	整容の崩れに自分で気づき、一人で整えることができる状況です。	手順等について、言葉を掛けることができる状況です。	身だしなみを整えることに手伝いが必要な状況です。	一人で身だしなみを整えることは難しく、拒否やこだわりなどで時間がかかる、何をしたらいいかわからない、手順がわからないなど全面的に支援が必要な状況です。		

6) 医療的配慮 編 [2 3 項目]

	視点	設問	選択肢					向き
1	(服薬管理)	薬を服用していますか	①	②	③	④	⑤	行政
			常用薬がある	とんぶく薬がある	なし			
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		常用薬(飲み薬、塗り薬、目薬、処方された薬)の有無、とんぶく薬の有無、服薬の頻度の確認。	かかりつけ医から処方があり、毎日定期的に服薬している状態である場合。	かかりつけ医から処方があり、発作時や症状がひどい時に服薬している状態である場合。	選択肢の通り。			
		設問	選択肢					向き
2	(薬管理)	自分の飲むべき薬を知っていますか／また、管理服薬する事が出来ますか	①	②	③	④	⑤	行政
			薬を認識しており、自分で管理服薬することができる	薬を認識しており、管理服薬の介助が必要である	薬を認識していない			
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		服薬の認識(薬かどうか、何の為に飲んでいけるかの理解)、服薬手順(服薬の順番、どこに部位に塗布するか、飲み残しの有無の確認ができるか、自分で服薬できるか)薬の管理(薬の保管、飲み忘れ、二重飲みを確認できるか)。	何らかの支援がなくても、自ら服薬が可能で、行動が理解できる場合。	薬を認識しているが、介助が一部もしくは全部必要である場合。(設問の解釈のいずれかでも介助が必要であれば、②に該当する)	選択肢の通り。			
		設問	選択肢					向き
3	(医療的配慮)	定期通院がありますか／また、通院の頻度はどのくらいでしょうか	①	②	③	④	⑤	行政
			毎日通院している	定期的に通院している	不定期に通院している	通院していない		
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		・通院の頻度、有無の確認。 (通院の必要性について確認、自力通院に関しては別で確認) ・医師の指示により継続的な通院の必要がある。	医師の指示のもと、定期的に通院が必要な健康状態で、医療的配慮が比較的多い状態状態。	医師の指示のもと、月1回以上の通院が必要な健康状態で、医療的配慮が比較的小さい状態。	医師の指示のもと、月1回未満の通院が必要な健康状態。	選択肢の通り。		
		設問	選択肢					向き
4	(医療的配慮②)	定期的に訓練やリハビリに通っていますか／また、その頻度はどのくらいでしょうか	①	②	③	④	⑤	行政
			毎日通院している	定期的に通院している	不定期に通院している	通院していない		
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		・訓練・リハビリの頻度、有無の確認。(訓練・リハビリの必要性について確認、自力通院に関しては別で確認) ・医師の指示により継続的な訓練・リハビリの必要がある。	医師の指示のもと、定期的な訓練・リハビリが必要な状態。	医師の指示のもと、月1回以上の訓練・リハビリが必要な状態。	医師の指示のもと、月1回未満の訓練・リハビリが必要な状態。	選択肢の通り。		
		設問	選択肢					向き
5	(点滴管理)	点滴の処置が必要ですか	①	②	③	④	⑤	行政
			点滴の処置が1日の内1回以上ある	点滴の処置が1週間の内1回程度ある	点滴の処置が不定期である	点滴の処置がない		
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		・点滴処置の有無の確認。 ・点滴処置の頻度の確認。	選択肢の通り。	選択肢の通り。	必要に応じて点滴の処置を行っている場合。(てんかん発作、ぜんそく発作など)	上記に当てはまらない場合。(発熱時の点滴の経験など)		

		設問	選択肢					向き
6	(点滴管理②)	点滴の処置に配慮が必要ですか	①	②	③	④	⑤	行政
			配慮が必要である	配慮に必要がない				
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		・点滴処置が有(前問①～③該当者)に確認。 ・点滴処置の配慮の有無…常時見守りが必要か。(抜きの防止、体調変化、点滴が正常に滴下されているかの確認が必要	選択肢の通り。	選択肢の通り。				
		設問	選択肢					向き
7	(中心静脈栄養)	中心静脈栄養法の処置が必要ですか	①	②	③	④	⑤	行政
			中心静脈栄養法処置が持続的(24時間)である	中心静脈栄養法処置を以前受けた事がある	中心静脈栄養法処置が必要ない			
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		・中心静脈栄養法の有無の確認。 ・中心静脈栄養法の頻度の確認。 ・中心静脈栄養法が以前処置さ	選択肢の通り。	選択肢の通り。	選択肢の通り。			
		設問	選択肢					向き
8	(中心静脈栄養②)	中心静脈栄養法に配慮が必要ですか	①	②	③	④	⑤	行政
			配慮が必要である	配慮に必要がない				
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		・中心静脈栄養法が有(前問①～②該当者)に確認。 ・中心静脈栄養法の配慮の有無…常時見守りが必要か。(抜きの防止、体調変化、感染予防、栄養状態の管理)	選択肢の通り。	選択肢の通り。				
		設問	選択肢					向き
9	(人工透析)	人工透析の処置が必要ですか	①	②	③	④	⑤	行政
			人工透析の処置が必要	人工透析の処置が今後必要になる可能性がある	人工透析の処置が必要ない			
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		・人工透析の有無の確認。 ・人工透析の頻度の確認。 ・人工透析が今後処置されるかの確認。	選択肢の通り。	選択肢の通り。	選択肢の通り。			
		設問	選択肢					向き
10	(人工透析②)	人工透析はどのくらいの頻度で行っていますか	①	②	③	④	⑤	行政
			人工透析の頻度が週3回以上である	人工透析の頻度が週3回未満である				
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		・人工透析が有(前問①～②該当者)に確認。 ・人工透析の配慮の有無…常時見守りが必要か。(シャントの保護、体調変化、感染予防、栄養状態の管理)	選択肢の通り。	選択肢の通り。				
		設問	選択肢					向き
11	(ストーマ)	ストーマ管理が必要ですか	①	②	③	④	⑤	行政
			ストーマ-管理が全介助である	ストーマ管理が一部介助である	ストーマ管理が自立である	ストーマ管理の処置がない		
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		必要の有無、ストーマ管理、消化管タイプか尿路タイプの確認、介助(見守りも含む)の配慮点、処置や状態の管理。	すべての管理に介助が必要。(見守りも含む)	パウチ交換／ガス抜き／尿便の破棄のいずれかが一部介助もしくは見守りが必要。	パウチ交換／ガス抜き／便の破棄のすべてが自立。	選択肢の通り。		

	視点	設問	選択肢					向き
12	(酸 素 療 法)	酸素療法を行っています か	①	②	③	④	⑤	行政
			酸素療法を継続的にしている	酸素療法を行っていない				
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		必要性や頻度の確認。	頻度の確認を行う。 定期的に処置を受けている。(夜間も含む)	過去受けていたもしくは受けた事がない場合。				
	視点	設問	選択肢					向き
13	(レ ス ピ 配 慮)	レスピレーターを使用 していますか	①	②	③	④	⑤	行政
			レスピレーターを使用している	レスピレーターを使用してい ない				
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		必要性の確認、経鼻／経口／気 管切開／の種類の確認。	種類を確認する。(経鼻／経口／ 気管切開)	選択肢の通り。				
14	(気 管 切 開)	気管切開を行っています か	①	②	③	④	⑤	行政
			気管切開を行っている	気管切開を行っていない				
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		切開の有無／配慮点(カニュー レの処置、自己抜去)／本人の 状態	気管切開の配慮の確認。(自己抜 去などの確認) 緊急時の対応の確認。[かかりつ け医(主治医)との連携、医療機 関への受入体制の確認]	選択肢の通り。				
	視点	設問	選択肢					向き
15	(経 管 栄 養)	経管栄養療法が必要で すか	①	②	③	④	⑤	行政
			経管栄養法が必要がある	経管栄養法が必要がない				
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		経管栄養療法の有無／頻度の確 認	経管栄養療法の有無／種類(経 口・経鼻・その他)の確認/頻度 の確認。 ※胃腸腸瘻については別設問。	選択肢の通り。				
	視点	設問	選択肢					向き
16	(モ ニ タ ー 測 定)	モニター測定を行って いますか	①	②	③	④	⑤	行政
			モニター測定を定期的に実施し ている	モニター測定を不定期(必要に 応じて)実施している	モニター測定を実施していない			
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		必要性の有無、頻度の確認、緊 急時の対応の確認。[かかりつ け医(主治医)との連携、医療 機関への受入体制の確認]、医 師の指示のもと実施してい るか。	配慮点と測定数値に種類/頻度の 確認。 (月1回以上の場合)／本人の重症 度。	選択肢の通り。 月1回未満の実施の場合は不定期 とする。	選択肢の通り。			
	視点	設問	選択肢					向き
17	(留 置 カ テ ー ル 配 慮 テ ル)	留置カテーテルを処置を 受けていますか	①	②	③	④	⑤	行政
			留置カテーテルの管理(排尿)に ついて、介助が全部必要である	留置カテーテルの管理(排尿)に ついて、介助が一部必要である	留置カテーテルの管理(排尿)に ついて、自立である	留置カテーテルの管理(排尿)に ついて、なし		
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		留置カテーテルの有無／配慮点 ／介助度の確認。	留置カテーテルの有無／配慮点/ 介助度の確認(手順のすべてに介 助もしくは見守りが必要/頻度の 確認。	留置カテーテルの有無／配慮点/ 介助度の確認/手順のいずれかに 介助もしくは見守りが必要(定時 誘導も含む)/頻度の確認。	留置カテーテルの有無／配慮点/ 介助度の確認/手順が自分で行え る/頻度の確認。	選択肢の通り。		

	視点	設問	選択肢					向き
18	(医療的配慮)	血糖値管理は可能ですか	①	②	③	④	⑤	行政
			血糖値管理が全介助である	血糖値管理が一部介助である	血糖値管理が自立である	血糖値管理の必要がない		
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		医師の指示の元の管理である事 血糖値管理の解釈。(不調時の 訴え及び対応、血糖値の測定、 インスリン注射の処置)	血糖値管理の(管理の手順の中) すべて介助もしくは見守りが必要 な場合。	血糖値管理の一部介助(管理の手 順の中)もしくはいずれか見守り が必要な場合。	血糖値管理の手順がすべて自力で 行うことが可能。	選択肢の通り。		
	視点	設問	選択肢					向き
19	(医療的配慮)	吸引を行っていますか	①	②	③	④	⑤	行政
			吸引を行っている	吸引を行っていない				
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		喀痰吸引の有無(鼻水はなし)、 吸引の部位、頻度の確認。	吸引の部位、頻度の確認。	選択肢の通り。				
	視点	設問	選択肢					向き
20	(医療的配慮)	吸入が必要ですか	①	②	③	④	⑤	行政
			吸入を行っている	必要に応じて吸入を行っている	吸入を行っていない			
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		吸入器の種類、使用頻度。	吸入器の種類、使用頻度。	選択肢の通り。	選択肢の通り。			
	視点	設問	選択肢					向き
21	(医療的配慮)	発作がありますか	①	②	③	④	⑤	行政
			ある	なし				
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		発作の種類、医師の診断の有 無。	てんかん発作、ぜんそく発作、そ の他。 ※チェック症は除く。 医師の診断の有無。 ※抗てんかん薬の服薬の有無。	抗てんかん薬の服薬がない場合。				
	視点	設問	選択肢					向き
22	(医療的配慮)	胃瘻／腸瘻の処置を受けて いますか	①	②	③	④	⑤	行政
			受けている	受けていない				
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		胃瘻・腸瘻のいずれかの確認。	選択肢の通り。	選択肢の通り。 ※以前処置を受けていた場合も含 む。				
	視点	設問	選択肢					向き
23	(精神的配慮)	精神状態は安定していま すか	①	②	③	④	⑤	行政
			不安定な時が多い	時々不安定になる	安定している			
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		頻度、内容、程度、かかりつけ 医の有無の確認、服薬の有無の 確認。	ほぼ毎日の場合。 内容と程度。 服薬の有無の確認。 かかりつけ医の有無の確認。	月1回～週1回程度の場合。 内容と程度。 服薬の有無の確認。 かかりつけ医の有無の確認。	月1回未満の場合。 服薬の有無の確認。 かかりつけ医の有無の確認。			

7) 児童期・思春期必要ポイント 編 [4領域68項目]

項目	グループ	設問	設問					向き
			①	②	③	④	⑤	
基本的 生活 動作	旭 川 G	お子さんは、規則正しい生活を送っていますか	規則正しい生活している	声掛けがあると行動に移れる	声掛けがあっても行動に移れない時がある	生活リズムが整っていない		行政 保護者
		解釈 生活リズムは安定しているか。 乱れる頻度。	一日3食食べている。 起床、就寝時間が決まっており 平均8時間程度の睡眠がある。 平日は決まった時間で行動できる。 約束の時間が守れる。	声掛けがあるまで自分で時計を 見て行動はしないが、声掛けが あると行動に移れる。	就寝リズムが乱れがち/眠りが浅 く夜中に目覚めやすい。 翌日の事を考えられない。 学校、園に遅刻が多い。 休み明けは不安定になりやす い。	一日の見通しを持つことができ ない。 昼夜逆転がある又は常にリズム が乱れている。		
基本的 生活 動作	旭 川 G	お子さんは、時間を意識して自発的に行動しますか (学童のみ)※中学・高校生	時間に合わせて行動している (起床、食事、洗顔、歯磨き、入 浴、就寝)	声掛けやタイマーなどキッカケ があると行動に移れる	声掛けがあっても納得するまで 行動に移れない	時間に合わせて行動することが 出来ない		行政 保護者
		生活リズムの安定状況や自立度を図る為、介助を受けず に取り組めるかを確認する。	アラームなどの活用が出来る。	他の事に夢中になっていても、 声掛けがあると切り替えて行動 に移ることが出来る場合を含 む。	約束の時間を守ることが出来な い。	昼夜逆転がある場合を含む。		
基本的 生活 動作	旭 川 G	お子さんは、排泄、食事、着脱、入浴など身の回りのこと を一人での程度出来ますか	基本的に一人で取り組むことが できる (声掛けて行動する)	声かけと事後の確認が必要	準備を手伝うなど一部の介助が 必要	介助が必要		行政 保護者
		動作的な行動が一人でできるか。(きれいになどの質は 問わない) 親の見守りの元で自分からやろうとするか。	毎回の確認は必要ない状態。	都度声かけが必要。 できたりできなかったりするた めに、確認が必要。 衣類の表裏、前後などの指摘を うけて直すことができる。 手順書や着替えを用意される事 で行動に移れる。	毎回または時どき部分的に手を かける必要がある。	すべてやってあげる必要がある 感覚過敏やこだわりにより介助 が必要な場合を含む。		
基本的 生活 動作	旭 川 G	お子さんは、身の回りのことを自分でどの程度できま すか (学童のみ)※中学・高校生	基本的に自分でできる	声かけがあると自分でできる	準備など一部を手伝えば自分で できる	すべて介助が必要		行政 保護者
		社会生活を維持するための身辺自立度を確認する。 (ADL+質) 服装や髪形などを含めた身だしなみを意識して行動して いるか。 介助の度合	履かせや髭剃りなど指摘を受け ることなく直したりできる。 電気シェーバー、ドライヤーな どの使用ができる。 生理時の処理が一人でできる。 爪切り・洗顔・歯磨きなどの衛 生の維持ができる。	衣服の乱れなどを声掛けでなお すことができる。 声掛けで生理の処理ができる。 声をかけて確認をする必要があ る。	毎回または時どき部分的に手を かける必要がある。 場所や場面によってできたりで きなかったりする。 感覚過敏やこだわりにより介助 が必要な場合を含む。 環境調整をすれば出来ることも ある。	すべてやってあげる必要がある 。		
基本的 生活 動作	旭 川 G	お子さんは、片付けやお手洗いをしますか	している／自分からしようとす る	気が向いたときや声掛けをした ときにしている	しない／させたことがない			行政 保護者
		興味があるか。 完成度ではなく、しようとする意識や関心度を確認。	お手伝いや片付けをしようとす る。	声をかけるとしようとする。	選択肢通り。			
基本的 生活 動作	旭 川 G	お子さんは、部屋の片づけなどが習慣になっていますか (学童のみ)※中学・高校生	なっている	気が向いたときや声掛けをした ときにしている	しない／させたことがない			行政 保護者
		生活上に必要な衛生面 (ゴミの分別やごみ捨て、汚れ 物) の意識を確認。 掃除や整理整頓、掃除道具の使い方の理解など。 食器の配膳や洗い物など。	使ったものを片付ける習慣があ る。 汚れに気付く事ができる。	声をかけるとしようとする。	ゴミを捨てる習慣が無くどこに でも置いてしまう。 収集癖がありゴミなどを捨てら れない。 汚れを気にする事が無い。			
基本的 生活 動作	函 館 G	衣類の着脱、食事、排泄が自立 (出来ない部分は助けを 求められる) していますか	一通り自分でできる	確認や仕上げが必要	部分的に支援が必要	全介助		行政 保護者
		身の回りのことはどの位一人でできますか。 ※衣類の着脱、食事、排泄の中で、一番ひとりででき ることが少ない項目でお答えください。	周囲が手伝う必要がなく、ほぼ 一人でできる。	衣類の着脱：前後表裏を整えて おく、小さめのボタンや、かみ 合わせの難しいファスナー等で 手伝いが必要な程度。 食事：自食ができるが、食べこ ぼしがあったり、箸ではなくス プーンやフォークが必要な程度 排泄：お尻を拭いたり、衣類を 整える際に手伝いが必要な程 度。	部分的にできない所があり、介 助が必要な状態。	ほとんど全部に介助が必要。		
基本的 生活 動作	函 館 G	予定を自分で組み立て、管理することができますか (学童のみ)	自分で組み立て、管理できる	概ねできるが、夢中になったり すると管理が不十分になること がある	支援があれば、組み立てたり管 理することができる	自分では、管理できない		行政 保護者
		一日の流れが理解できていて、自主的に生活の流れに 沿って動いているかどうか。	ほとんど支援を必要としない が、興味があることに集中し すぎると、行動が停滞すること がある。	ほとんど支援を必要としない が、興味があることに集中し すぎると、行動が停滞すること がある。	常に視覚的なアイテムや、周囲 の支援があれば、流れに沿って 生活できる。	時間の概念を獲得できていない ため、全面的に支援が必要な状 態。		
基本的 生活 動作	秋 田 G	一人もしくは、養育者と一緒に身支度の準備をスムー ズに行えていますか	年齢相応にはできていると思う	声かけで行うことが多い	介助で行うことが多い			行政 保護者 事業所
		朝の食事・洗面・着替え・準備などをスムーズに行うこ とに出来ているか。または、困難がないか。	幼児期までは年齢と比較して概 ねできているかを考える。	自発的に行う事は難しいが、や るべきことを指示されるとス ムーズにできる。	一人で行うことは難しく、介助 があると準備ができる。			

基本的 生活 動作	秋 田 G	日常生活を送る上で、身辺整理が一人でできますか (学童のみ)	ほとんどできる	声かけがあればできる	部分的な介助があればできる	介助があればできる	行政 保護者 事業所
		年齢相応の身辺自立（整容・準備・整理整頓・時間通り の登校等）が出来ているか。	一人でできることが多く、手動 けはほとんど必要としない。	一人でできなかったり、行っ ていても不十分なきがあるが、 声をかけると応じて取り組め る。	全て一人で言うことは難しい が、ボタンやファスナー等、動 作の一部を介助したりやり方を 工夫することできる。	一人では難しく、養育者が一緒 に行っている。または、養育者 が全面的に行っている。	
基本的 生活 動作	青 森 G	規則的な生活が送れていますか	送れている	送れていない			行政
		睡眠時間や生活リズム(食事/日中生活/排泄など)の確 認。	選択肢の通り。	選択肢の通り。			
基本的 生活 動作	青 森 G	一日のスケジュールを理解して過ごしていますか	理解している	ある程度理解している	理解していない		行政
		スケジュールの理解度の確認。	「おおよそ」「概ね」も含む。	一日の流れが曖昧にわかる、声 掛けなどの支援により理解し ている場合。	選択肢の通り。		
基本的 生活 動作	青 森 G	日常のスケジュールに合わせて行動できますか	行動できる	ある程度行動している	行動できない		行政
		日常のスケジュールへの適応の確認。	「おおよそ」「概ね」も含む 急な予定変更など興味がない部 分でも応じられる場合。	いつもと違う場面・場所にな ると、不安定な言動になる場合 いつもと違う場面・場所にな ると不安定な言動が窺えるが、見 通しが持てるように関わると安 定する場合。	選択肢の通り。		
基本的 生活 動作	青 森 G	食事に介助が必要ですか	自立	一部介助	全介助		行政
		食事のペース、安全性、食器の使用、食べる行為全般 を指す。	幼児対象：食器具を使用してい る、1人で食べ物を運ぶ行為がで きている。食事のスピードが極 端に遅い遅いが無い。食べ物と そうでないものの区別がつく。 ※口にしな、偏食がない。 学童対象：幼児対象に付け加 え、箸を使える、スプーンが握 り持ちではない。 (声掛け、見守りなどは自立に 含む)	幼児対象：食器具を使用してい る、1人で食べ物を運ぶ行為がで きている。食事のスピードが極 端に遅い遅いが無い。食べ物と そうでないものの区別がつく。 ※口にしな、偏食がない。 学童対象：幼児対象に付け加 え、箸を使える、スプーンが握 り持ちではない。 その内、どれか一つでも介助し ている場合。 終始声掛け、見守りが必要な場 合。	食形態の配慮が必要な場合。 終始介助が必要な場合。		
基本的 生活 動作	青 森 G	着脱に介助が必要ですか	自立	一部介助	全介助		行政
		確認事項：脱ぎ着、前後、裏表の確認、ボタン・ファス ナー、寒暖に応じた衣服の調整 ※学童：着替えの場所/身だしなみ(衣類)	確認事項：脱ぎ着、前後、裏表 の確認、ボタン・ファスナー、 寒暖に応じた衣服の調整 ※学童：着替えの場所、身だし なみ(衣類) 上記の内容を全て自分でできる 場合。	確認事項：脱ぎ着、前後、裏表 の確認、ボタン・ファスナー、 寒暖に応じた衣服の調整 ※学童：着替えの場所、身だし なみ(衣類) 上記の内、どれか一つでも介助 している場合。 終始声掛け、見守りが必要な場 合。	確認事項：脱ぎ着、前後、裏表 の確認、ボタン・ファスナー、 寒暖に応じた衣服の調整 ※学童：着替えの場所、身だし なみ(衣類) 上記の内1つ以上終始介助が必要 な場合。		
基本的 生活 動作	青 森 G	排泄に介助が必要ですか	自立	一部介助	全介助		行政
		使用する下着(紙または布) トイレで排泄できるか。 トイレトペーパーの適切な使用。 拭き取り、拭き残しの確認。 男子のみ、ズボンを適切な位置に下ろして排泄できるかの 確認。	使用する下着(紙または布) トイレで排泄できるか。 トイレトペーパーの適切な使 用。 拭き取り、拭き残しの確認。 男子のみ、ズボンを適切な位置 に下ろして排泄できるかの確 認。その内容を全て自分ででき る場合。	使用する下着(紙または布) トイレで排泄できるか。 トイレトペーパーの適切な使用。 拭き取り、拭き残しの確認。 男子のみ、ズボンを適切な位置に下 ろして排泄できるかの確認。 その内、どれか一つでも介助してい る場合。 終始声掛け、見守りが必要な場合。	紙パンツの使用しているかどう か。 設問の内1つ以上終始介助が必要 な場合。		
基本的 生活 動作	青 森 G	1人で就寝できますか	自立	一部介助	全介助		行政
		見守り、添い寝の確認、就寝時間やリズム(大体同じ時間 に就寝しているか)、自分で布団に入る、布団をかける 。	見守り、添い寝の確認、就寝時 間やリズム(大体同じ時間に就寝 しているか)、自分で布団に入る 、布団をかける。その内容を 全て自分でできる場合	見守り、添い寝の確認、就寝時間 やリズム(大体同じ時間に就寝して いるか)、自分で布団に入る、布団 をかける。その内、どれか一つでも 介助している場合。 終始声掛け、見守りが必要な場合。	添い寝が必要な場合、短時間で 頻回に覚醒する場合、設問の 内、終始介助がある場合。		
基本的 生活 動作	青 森 G	1人で起床できますか	自立	一部介助	全介助		行政
		起床時間やリズム(大体同じ時間に起床しているか)、 自分で布団から起きられるか。(目覚ましなどの機器の 使用は可)	起床時間やリズム(大体同じ時間 に起床しているか)、自分で布 団から起きられるか。(目覚まし などの機器の使用は可) その内容を全て自分でできる場 合。	起床時間やリズム(大体同じ時間 に起床しているか)、自分で布団 から起きられるか。(目覚ましなど の機器の使用は可) その内、どれか一つでも介助してい る場合。 終始声掛け、見守りが必要な場合。	上記の内、終始介助がある場 合。		

基本的 生活動作	大阪 G	おもちゃのお片付けができますか	自分で考えてお片付けができる	声かけがあれば行うことができる	大人と一緒に作業するとお片付けができる	できない	行政
		活動の切り替えができた、片付けという行為が継続できた、元々の位置に戻したり、入れ物に入れるなどの動作をすることができる。片付けという行為は生活環境を整えることにつながるため、整理整頓ができ、身の回りを秩序立てていくことができるかを問う。	他者から指示されなくても、次の行動に移るときに、片付けという行為が必要ということを理解し、それを行うことができる。片付けができることで、どこに何を片づけるかが理解できている。整った環境をイメージすることができ、物事を秩序立てて考えることができる。	声かけにより、活動の切り替えができたり、片付けの集中を継続できたり、物を戻す場所を覚えてもらうことで片付けることができる。	大人と一緒に片付けを行うことができたり、片づける場所がわかたり、片づけるという行為が継続できる。	活動の切り替えが難しかったり、生活環境を整えることを理解できていなかったりする。	
基本的 生活動作	大阪 G	学校に持って行くものの準備ができますか (学童のみ)	自分で判断して、学校に持って行くものの準備ができる	大人と一緒に確認しながら見守れば準備できる	大人と一緒に、持ち物を入れて準備している	大人がすべて準備している	行政
		今後の活動のイメージ（準備）ができる。日々の活動に必要なものや変更があったことを覚えて用意することができる。段取りができるかどうかなどを問う。	他者の助けがなくても、準備することができる。目的意識を持って活動に取り組むことができる。物事に対する基本姿勢ができている。忘れ物が多いという自覚があり、忘れ物を防ぐ工夫が自分でできることも含む。	少しサポートをすることで準備することができる。自らの記憶だけでは漏れることがあっても、補助があれば、活動に必要なものが理解でき、準備することができる。	大人と一緒にすることで、準備という行動を継続することができる。必要なものを教えてもらうことで理解ができる。活動と必要なものの結びつきが大人と一緒に考えることができる。指示されたものを準備することができる。	自分では準備ができない。準備する機会を与えていない。	
基本的 生活動作	大阪 G	食事、排泄、更衣などの生活リズムについて、理解し介助が必要ですか	生活リズムを概ね理解し、介助なしである	一部に介助や声かけが必要である	不眠、こだわり、偏食等による生活リズムのみだれがある	全面的に介助が必要である	行政
		朝昼晩の食事、起床後の着替え、尿意、便意を感じたらトイレに行く等の生活リズムについて問う。	自分で理解し、行動に移せる。	時間・場所への指示や声かけが必要。	不眠による昼夜逆転、同じ服を着続ける等のこだわり、偏食による食事時間のズレなどによる生活リズムの乱れが見られる。	場所への誘導や介助が必要。	
基本的 生活動作	大阪 G	食事、排泄、更衣などの生活リズムについて、スケジュールをどの程度理解し把握できていますか (学童のみ)	スケジュールを把握し、変更や場面の選択に対応出来ている	場面の切り替えや次の行動について、声掛けや視覚支援が必要である	理解している様子はないが、行動に移すのに時間を要することや一部介助が必要である	場面の切り替えや次の行動について、介助が必要である	行政
		朝昼晩の食事、起床後の着替え、尿意、便意を感じたらトイレに行く等の一週間のスケジュールの把握をしている。	介助なしで、行動に移せる。	次のスケジュールへの声かけや次に行うこと、場所等の写真やイラストのカードを使った視覚支援が必要。	行動に移す時に気持ちの切り替え等に時間がかかったり、一部介助が必要。	全面的な介助（誘導等）が必要。	
基本的 生活動作	鹿児島 G	どんな生活場面で手助けが必要ですか	何も手助けが必要ない	見守り、ことば掛けがあれば一人できる	少し手伝いがあればできる	かなりの手伝いが必要	行政
		幼児から小学校低学年を想定しています。ADLとは食事、着脱、排泄、整容、移動等をいいます。IADLとは食事の配膳、片付け等、登園登校の準備、おつかい等をいいます。幼児以下は②～④とします。お子さんの苦手な生活場面をイメージしてもらい、確認します。	スケジュールに見通しを持ち、自発的に取り組み、ほぼ一人で行える状況です。	直接的な介護・支援は必要なくとも、ことば掛けや見守りが必要な状況です。	食事の配膳、片付け、登園登校の準備は一緒にすればできる状況です。	ほとんど全部に介助が必要な状況です。	
基本的 生活動作	鹿児島 G	決まった生活リズムがありますか (学童のみ)	決まった生活リズムがある	日によって異なるが、パターンがある	本人の状況によってリズムが崩れる	生活リズムが定まっていない	行政
		どのような生活をしているかを確認します。予定を自分で立てて、管理することができているか確認します。	予定に急な変更があっても、対応できる（昼夜逆転は除く）、周囲へ迷惑を掛けずリズムがある（夜中のシャワー等は除く）等の状況です。	自分なりのやり方で日常生活に支障がない程度の生活リズムが保たれている。予定に急な変更があっても、理由等の確認をすれば対応できる状況です。	何かに夢中になり、次の行動に移れない、予定に急な変更がある、行動が停止する等の状況です。	昼夜逆転している、睡眠が安定せずに昼間の活動に支障を来すような状況です。	

項目	グループ	設問	設問					向き
			①	②	③	④	⑤	
自立生活・余暇活動	旭川 G	お父さんは、公園などの外出先で支援が必要ですか？	必要ない	見守りが必要	そばにいてくれることが必要	常に支援が必要		保護者
		解釈 遊びの場面で見守り状況の確認。	遊具等を使用するなどして楽しめる。	見守りがあれば初めての場所でも楽しめる。	初めての場所は不安が強くなるので一緒に行動する必要がある遊具の取り扱いになるなどがあるため介入が必要。	選択肢通り。		
自立生活・余暇活動	旭川 G	お父さんは、好きなことをして時間を過ごすことができますか (学童のみ) ※概ね中学・高校生	過ごせる	過ごせたり過ごせなかったりする	過ごせない／させられない			行政 保護者
		趣味や余暇につながる好きな活動がある。家族がいなくても留守番ができる。常に誰かがついていなくても一人で過ごせる。	好きな遊びがある／選んで遊ぶ。	好きな遊びがある／選んで遊ぶが長続きはしない。気分によってできる時とできない時がある。	選択肢通り。			
自立生活・余暇活動	旭川 G	お父さんは、小遣いを計画的に使っていますか (学童のみ) ※概ね中学・高校生	計画を立てて使っている	無駄使いがある	親が管理している／やらせたことがない	できない		行政 保護者
		持っている金額と欲しい物との金額差を理解できているかの確認。決まった範囲でお金を使うことができるかの確認。	欲しい物の金額を確認して貯めることができる。	持っているとお金を使い切ってしまう為、管理が必要になる。	青段は親が管理しているので基本的に使う事が無い。	金銭理解がない。		

自立生活・余暇活動	旭川 G	お子さんは、外出先で飲み物や食事のメニューを自分で選んで決めますか	選んで決める	アドバイスを受けて周囲に合わせて決められる	決められない			行政 保護者
		自分の思い、考えを持っているかの確認。	自分で決めることができる。 即答できる。 決まったものしか選ばない。 (こだわりのある)	親、友達が決めたものを見てから決めるなど自身の考えが不明な場合。 選択肢を提示するなどの配慮で決められる。 時間はかかるが、決めることができる場合。	何でもいなど決める事をしない。 考えないで任せてしまう。 選択する事を理解できない。			
自立生活・余暇活動	旭川 G	お子さんは、予定(計画)を立てて行動しますか (学童のみ) ※概ね中学・高校生	する	したりしなかったりする	ほとんどしない	しない/できない		行政 保護者
		周りに合わせたり、計画的な行動がとれるかどうかの確認。 時間を意識して計画的に行動しているかどうかの確認。	常態や友達との約束を予定する事ができる。 助言を受けずに自分で計画的に取り組める。	助言があれば計画通りに取り組める。 興味がある時のみだけする。 誘われると遊びに行くことはできるが自分からは誘えない。 周りの意見に振り回されてしまう。 他人任せで自分の意見を持っていない。	ゲームやYouTubeなどに没頭し、他のことをしようとしにくい。	選択肢通り。		
自立生活・余暇活動	函館 G	一人で目的に合った遊びができますか	楽しめる遊びのレパートリーがあり、20～30分一人遊びができる	限られた物を使用するか、5～20分程度であれば一人遊びができる	大人がそばに居て見守ってれば、一人遊びができる	一人遊びはできず、常に大人が相手をしなければ過ごせない		行政 保護者
		家庭で子どもが一人で過ごしている時の様子。	家族がそばに居なくても、一人で20～30分目的に合った遊びをして過ごせる。(途中で遊びの内容が変わっても良い)	家族がそばに居なくても、ごく限られた物であれば、一人遊びができる。 または、一人で5～20分程度目的に合った遊びをして過ごせる。	家族がそばに居れば、一人遊びができる。	一人で過ごすことができます。常に家族が相手をしている必要がある。		
自立生活・余暇活動	函館 G	金銭管理ができますか (学童のみ)	見通しを持って、金銭管理ができる	支援があればできる	決まっている物の買い物程度ならできる	全くできない		行政 保護者
		お金の価値観が理解でき、お小遣いなどを、計画的に使ったり貯金したりすることができる。	今使えるお金の中で、計画的に物を買ったり、遊びに行ったりすることができる。	親がお金を管理して、その時に使えるお金だけを渡せば、物を買ったり遊びに行ったりすることができる。	親がお金を管理し、その時に使えるお金だけ渡し、さらに何にいくら使用するかも決めてもらえばできる。	物の値段やお金の価値が理解できず、お金を扱えない。		
自立生活・余暇活動	秋田 G	家庭ではどのようにして過ごしていますか	一人で好きなことをしている	選択肢を示すと選んで遊んでいられる	常に遊び相手が必要			行政 保護者 事業所
		食事、入浴等の決まった活動以外の時間を1人で過ごせるか。決まった活動以外の時間、自身でやりたいことを見つけて楽しめるか。	必ず遊び相手が必要とせず、自分で好きな遊びを考えたり選んだりして楽しむ。	自分で好きな遊びを見つける事は難しいが、いくつかの遊びを提案されると自分で遊び楽しむことができる。	1人では遊べず、常に相手をする必要がある。または、1人では安全に遊ぶことが難しく、常に見守りが必要である。			
自立生活・余暇活動	秋田 G	好きな事を自分で見つけ、それを楽しむことができますか (学童のみ)	できる	選択肢を示すとできる	環境を整えばできる	好きな事は特にない		行政 保護者 事業所
		余暇の過ごし方の確認。自発的に遊びや活動を選択し、安全に過ごせるかどうか。	特別な配慮がなくても安全に余暇を楽しむことができる。	自発的に余暇を楽しむことは難しいが、選択肢を提示されると、その中から好きなことを選んで楽しむことができる。	慣れている、馴染みのある空間や人、物などの影響を受ければ、楽しむことができる。	好きなことが見つからない、何をすれば良いかわからない。		
自立生活・余暇活動	秋田 G	簡単な買い物やお使いはできますか	できる	決まった金額を持たせればできる	経験したことがない			行政 保護者 事業所
		買い物のスキルがどの程度についているか。金銭を使用する経験をしたことがあるか。	適切な金額を渡して品物とおつりを受け取ることができる。	持たされたお金を渡して、品物とおつりを受け取ることができる。	できないと思っているので、または時期尚早と思うので行わずにない。本人に不安があり、やりたがらない。			
自立生活・余暇活動	秋田 G	お小遣いを自分で管理して使うことはできますか (学童のみ)	できる	大人の確認があればできる	できない	させていない		行政 保護者 事業所
		金銭管理がどの程度できているか。金銭管理の経験を積んでいるか。	決められたお小遣いの中で使い道を決め、計画的に使用することができている。	時々財布の中を確認する、または支払い時に立ち会う等、大人が少し手助けすれば問題ない。	あればあるだけ使ってしまう、お金を支払う行為ができない、大人の助言があっても、計画的に使用することが難しい。	できないと思っているので、または時期尚早と思うので行わずにない。本人に不安があり、やりたがらない。		
自立生活・余暇活動	青森 G	好きな遊びや活動がありますか	ある	ない	わからない	ある(支援が必要)		行政
		一つの遊びに集中できているか。 適切な遊び方ができるか。(本来の用途にあった遊びか) 危険のない遊びか。 遊びを終わる事ができるか。	上記の内容を確認し、1つ以上チェックがある場合は④の選択肢とする。	選択肢の通り。	選択肢の通り。	選択肢の通り。		
余暇生活・活動	青森 G	複数人で遊ぶ事ができますか	できる	できない	わからない			行政
		遊びの内容についての確認、促しの必要の有無(大人の介入も含む)、誰と遊んでいるか。	設問の解釈を確認。	遊びを拒否する場合。	選択肢の通り。			
余暇生活・活動	青森 G	好きな遊びや活動を企画できますか (学童のみ)	企画できる	企画できない	わからない			行政
		内容の選択、日程の調整、他者との情報共有・相談、内容の決定。	上記の内容で、すべてできる場合。	上記の内容で、1つ以上支援が必要な場合。	選択肢の通り。			
余暇生活・活動	青森 G	お金の種類がわかりますか	わかる	一部わかる	わからない			行政
		お金の種類の理解。(価値の理解は問わない)	選択肢の通り。	特定の金額のみわかる場合。	選択肢の通り。			

余暇生活・自立生活活動	青森 G	金銭管理を自分でできますか (学童のみ)	できる	一部できる	できない		行政
		お金の価値の理解、計画性を持ってお金を使用する事ができるか。	選択肢の通り。	一時的に自分で管理ができる。 (財布のみ)	選択肢の通り。		
自立生活・余暇活動	大阪 G	休日の外出について教えてください	誰とどこに遊びに行くかを考えて、行くことができる	友達と遊びに行く	家族以外の人（ヘルパーなど）と外出をする	家族や親族以外の人と外出することはしない	行政
		休日の過ごし方をみることで、他者との関りの広がり方や見守りがどの程度必要かを確認する。	自分で計画して、他の人を誘うなどして外出することができる。 自由な時間を誰とどのように過ごすかを自分で決めることができる。	大人の見守りがなくても活動できるが、配慮が必要。 同年代の子も同士の関係を作って楽しむことができるが、関係の作り方（相手の思いを考えずにいろいろな人を誘うなど）を見守る必要がある。	移動支援等の福祉サービスの利用ができる。保護者から離れ、第三者と行動することができる。 どのように余暇を過ごしたいかを考える機会があり、好みの余暇の過ごし方を模索している段階。	家族の中だけで、余暇が完結している。 保育所・幼稚園・学校以外の居場所が家庭しかない。 (あるいは、家庭内に居場所がなく、一人で外で過ごす状況にあったり、余暇に家族と外出することはほとんどない。)	
自立生活・余暇活動	大阪 G	買い物に行くことができますか (学童のみ)	一人で買い物をしたり、友達と買い物に行き楽しんだりすることができます	自分の買いたいものを選ぶことができる	自分の買いたいものを選ぶことができる	買い物は難しい	行政
		自己選択・自己決定、金銭管理ができているかを確認する。 (但し、目の前にないものを選択したり決定したりすることができかどうかの判断は難しい)	自己選択や自己決定ができ、金銭管理もできている。	欲しいものが目の前にあれば、自己選択や自己決定ができる。 金銭管理は他者の支援のもとで行うことができる。	意思決定の支援があれば、自分の欲しいものを選ぶなどの選択や決定ができる。	欲しいものを選ぶことが難しい。保護者が選んできた（選択の機会がなかった）。	
自立生活・余暇活動	鹿児島 G	家族以外と一緒に出掛ける人が居ますか	一緒に出掛けて遊ぶことができる	大人の見守りがあれば、一緒に出掛けることができる	家族と一緒にならで出掛けることができる	出掛けるためには常に支援が必要である	行政
		家族（支援者）以外と一緒に出掛けて遊ぶことが出来るか確認します。 本人が情緒的に安心して出掛けることが出来るか、また飛び出しや迷子などなく、安全に出掛けられるか確認します。	お友だち（支援者のほのぞく）と一緒に出掛けて遊ぶことが出来る。 「〇〇公園に行くね」等、行先などの行動を伝えてから出掛ける、道路等の飛び出しがなく、危険予測ができる、少年団等の活動に参加できるような状況です。	子どもだけでは危険等の心配があり、大人の見守りが必要、本児の事を理解していない大人の見守りで過ごすことができるような状況です。	家族及び支援者等慣れた大人と一緒になら出掛けることができるような状況です。	買い物の際など必要性や価格など判断できず金銭管理が必要、公共の場での振る舞いや他者との関わりに支援が必要な状況です。	
自立生活・余暇活動	鹿児島 G	一人で留守番をすることができますか (学童のみ)	一人で留守番をすることができます	短い時間なら留守番をすることができます	家の中（別室）に大人が居れば一人で過ごすことができます	常時見守りが必要で、一人で留守番をすることは難しい	行政
		一人で留守番をすることは将来の自立生活に繋がります。 視察段階での状況を確認します。 小学3年生以下は②～④とします。	鍵、電話等の使用が適切にでき、一人で留守番できる状況です。	20～30分程度の大人の外出時に留守番をすることができる状況です。	きょうだいや祖父母等が別室に居る状態なら留守番ができる状況です。	危険予測が難しく目を離す事が出来ない為に留守番をすることはできないような状況です。	

項目	グループ	設問	設問					向き
			①	②	③	④	⑤	
コミュニケーション	旭川 G	お子さんは、自分の気持ちを伝える際にTPOに合わせた言葉の使い方や態度で表現しますか (学童のみ) ※概ね中学・高校生	する	たまにする	ほとんどしない	しない		行政 保護者
		解説 人との関わりで、トラブルになる言動の有無を確認。	屋内や屋外での声の大きさ、親しい間柄であっても敬語を使用することができるなど、正しい言葉使い。 場所や相手によって言葉使いを使い分けて表現する事ができる。	声が大きい、または小さくて聞き取り難いなど。 声量の調整が難しいが言葉を使い分けて表現できるなど。 理解していると思われるが、気分によってできないことがある。	敬語を使うことはできないが表現する事ができる。 乱暴な言葉使いが多い／一方的な発言が目立つ。 相手から気持ちを確認してもらうことや代弁してもらうなど配慮が無ければ表現する事ができない。 自分の気持ちを伝える際に支援（環境調整）が必要。	選択肢通り。		
コミュニケーション	旭川 G	お子さんは、自分の事だけではなく相手の話を聞く、又は聞こうとしますか (学童のみ) ※概ね中学・高校生	する	配慮があればする／しようとする	しない			行政 保護者
		相互理解／合意／折り合いをつける	字義どおりにとらえず、やり取りができる。 トラブルにならないやり取りができる。	口頭の質問に対してイエス、ノーなどの返答はできる。 聞かれた事には答えられる。 視覚的な提示や細かな質問、選択肢があるなど配慮が必要。 配慮があれば答えられる。	一方的な主張のみ繰り返す。 トラブルが多い。 他者に関心がない。			
コミュニケーション	旭川 G	お子さんは、自分の障がい特性/疾病について理解していますか (学童のみ) ※概ね中学・高校生	している	しようとしている	知らせていない	していない		行政 保護者
		自分のことを理解する。 自分の得意なことや苦手なことを知る。 自分のできないことを伝える。 苦手なことを相談しながら取り組む。	自分の障がい特性/疾病を知っていて周りに相談することがある。	障がい特性/疾病を知っているが周りに隠している。 障がい特性/疾病を理解するように支援を受けている。	障がい特性/疾病について話したことがない。	障がい特性/疾病について理解できていない。 できない。		
コミュニケーション	函館 G	自分の好きな物が分かり、伝えられますか	伝えられる	支援があれば伝えられる	様子を見て周りが察する	自分でも分かっているし、周囲も分からない		行政 保護者 事業所
		好み（食べ物、玩具、行きたい場所、やりたいこと、遊びたい人等）があり、それを伝えることができる。	自分の好きな物を選び、伝えられる。	具体的な選択肢を提示すると、選択できる。	子どもの様子を見て、好きな物が何なのか、何をしたいのか等を判断する。	子どもの様子を見ても、何が好きなのか、何をしたいのか判断できない。		
コミュニケーション	函館 G	自分の体や気持ちの不調が、訴えられますか (学童のみ)	適切な手段で訴えられる	支援があると訴えられる	うまく訴えられないので、様子を見て周りが察する	訴えられないし、周りが察することも難しい		行政 保護者 事業所
		自分自身の体や気持ちの変化が理解でき、正しく訴えられるかどうか。	自分の体調や気持ちの変化を、常に言葉やコミュニケーションツールを使用して、周囲の人に正しく訴えられる。	その子が理解できる選択肢があれば、訴えることができる。	支援があっても自分から訴えられないため、本人の様子（顔色や表情、仕草等）で周囲が判断する。	支援があっても自分から訴えられないし、本人の様子を見ても体調や気持ちを正しく読み取れない。		

コミュニケーション	秋田 G	自分の気持ちや考えを表現することはできますか	できる	家庭以外の慣れた人、場所でする	家庭内ではできる	表現しない	行政 保護者 事業所
		様々な場面や相手に対して、あしたい、こうしたい、これがいい、こう思う等の意思表示をどのくらい行えているか。	場面や相手を問わず、自分の意思を伝えることができる。	通っている教育、保育施設、慣れた職員や親戚等、安心できる状況であればできる。	出先では難しいが、家庭の中ではできる。 家族の前ではできる。	表現できない、もしくはしない。	
コミュニケーション	秋田 G	場面や相手に合わせて適切に気持ちを表現することはできますか (学童のみ)	できる	できない時がある	できない時が多い	表現しない	行政 保護者 事業所
		場面や自分と相手との立場を理解し、状況に合ったコミュニケーションが取れるか。	日常生活に支障なく、コミュニケーションが取れている。	コミュニケーションのとりかたが、状況にそぐわないいばいもあるが、概ねできている。困り感はない。	相手や場面に寄って、コミュニケーションのとりかたを変えることが難しく、日常生活に支障を来している。	表現できない、もしくはしない。	
コミュニケーション	青森 G	自分の意思を伝えることができますか	できる	一部できる	できない		行政
		表出手段の確認。 受信側の支援・汲み取りは必要か。	選択肢の通り。 (手段は問わない)	意思の内容の汲み取りや代弁が必要な場合。 特定の人・事など、対象に限られる場合。	選択肢の通り。		
コミュニケーション	青森 G	他者と意思疎通ができますか	できる	一部できる	できない		行政
		意思疎通手段の確認。 やり取りに支援・汲み取りは必要か。	選択肢の通り。 (手段は問わない)	意思の内容の汲み取りや代弁が必要な場合。 特定の人・事など、対象に限られる場合。	選択肢の通り。		
コミュニケーション	大阪 G	自分の快、不快や気持ちを適切に相手に伝えるために介助は必要ですか	自分の思いを相手に伝えることができる	自分の思いを単語または写真・カードなどのツールがあれば、伝える事が出来る	表情・動作・サインを使用して伝える事が出来る	意思表示がありません、また意思表示があってもくみ取りにくく、全面的に介助が必要である	行政
		言葉のみではなく、他の方法についても問う。	手段は問わない。言葉を話せない場合は、手話やトーキングエイド等のツールを使ってもらえる。	他者が用意した写真・カードを使って伝える。	顔の表情、身体での表現、クレーンや指さし等の動作やサインを使って伝える。	快・不快、自分の気持ち等の意思表示がなく、また意思表示があっても受け手がくみ取りにくい、介助（提示や指示）があれば伝える。	
コミュニケーション	大阪 G	友達と遊んでいる時のやり取りの仕方について教えてください (学童のみ)	自分のやりたいことを相手に伝え、相手のやりたいことも聞くことができる	相手の意見を聞くことは苦手だが、自分の意見を伝えることができる	自分のやりたい遊びが通らないと腹を立てる	何をして遊びたいかを伝えることができない	行政
		意思表示の有無、意思疎通の有無、場面にあった適切な表現や関りができるかを確認する。 コミュニケーションが双方向か一方通行か、また、合意形成に大人の介在が必要かを確認する。	大人が介在しなくても、話し合って決めることができる。相手の気持ちを考えることができる。	自分からの働きかけは一方通行だが、自分の意見を押し通すまではいかず、コミュニケーションを成立させるために大人の介在が必要。	自分からの働きかけが一方通行で、思い通りにならないと腹を立てる。相手の思いまで考えが及ばず、自分がやりたいことを押し通そうとする。大人が静止して、その要求を満たす代替案や方法を提示するなど介入が必要である。	自分がどうしたいかわからなかったり、意思を表出する力が弱い。外に働きかける力が弱い。	
コミュニケーション	鹿児島 G	同年齢の集団に所属し、集団のルールや相手の感情を察知・理解し遊んだり活動に参加することができますか	同年齢の集団に所属し、活動に参加することができる	集団の暗黙のルールや雰囲気に基づきにくい、支援者が言葉かけを行う事で気づき理解することができる	集団の暗黙のルールや雰囲気に基づきのが難しく、支援者の直接的な支援を要す	集団の中にいて過ごすことから練習が必要な状態	行政
		集団適応力や共感性を確認します。 所属する集団とは、子ども園、保育園、幼稚園、学校のクラス集団とします。	支援が不要で集団の暗黙のルールや雰囲気に基づき、自ら集団の中で過ごすことができる状況です。	所属する集団の主たる支援者（担任・担当）が対象児の特性を理解し配慮することで集団への参加が可能な状況です。	所属する集団の構成員（児童）に対象児の理解が必要、所属する集団の規模（小グループ化）や構成員（年下のグループにする）等の配慮が必要な状況です。	集団の流れに入るより個人単位の支援が優先され日常生活自体に特別な支援が必要な状況です。	
コミュニケーション	鹿児島 G	学校等で取り組んでいる学習や職業訓練の意味を理解し、就職等に向けて見通しを持って取り組んでいますか (学童のみ)	学校等で取り組んでいる学習や職業訓練の意味を理解し、就職等に向けて見通しを持って取り組んでいる	担任や支援者が子どもの特性を理解し配慮することで学習や職業訓練への参加ができる	周りの理解や環境調整によって、学習や職業訓練への参加ができる	学校や事業所においては、1対1に近い体制が必要ななど、個別に人員を配置すれば学習や職業訓練へ参加できる	行政
		場面や自分に合った行動ができるかどうか、職場での人間関係・プライベートでの友人・交友・恋愛関係について理解し、失礼にならない服装・身だしなみ・言葉遣いができるかどうかを確認します。 進学・就職への見通しを持ち、適切な人間関係を築いているかどうかを確認します。	進学・就職への見通しを持ち、適切な人間関係を築いている状況です。	所属する集団の主たる支援者（担任・担当）が対象児の特性を理解し配慮することで集団への参加が可能な状況です。	所属する集団の構成員（児童）に対象児の理解が必要で、所属する集団の規模（小グループ化）や構成員（年下のグループにする）等の配慮が必要な状況です。	個別の支援が優先され、集団参加が難しく、日常生活全般に支援が必要となる状況です。	

項目	グループ	設問	設問					向き
			①	②	③	④	⑤	
地域生活・地域交流	旭川 G	お子さんは、友だちの家へ遊びに行ったり、親と一緒に地域行事に参加していますか（友だちと公園で遊ぶのも含む） ※概ね小学生まで	している	支援や配慮があるところではしている	経験がない	していない／できない		行政 保護者
		解釈 地域とのつながりの状況や経験を確認。	親戚や近所の同世代との交流がある。 家に家族以外の人が来ることがある。 学校やデイサービス以外の活動の場がある。	短時間なら可能。 本人や周囲の人が良く知っている環境であれば可能。	できるかできないかは不明。 させたことがない。	選択肢通り。		
地域生活・地域交流	旭川 G	お子さんは、毎日学校に登校していますか (学童のみ) ※概ね中学・高校生	毎日学校に登校している	毎日登校しているが、教室以外の場所で過ごしている	登校しているが、課題がある 学校以外の活動には参加できる	登校できない		行政 保護者
		不登校になっていないか。 不登校になる予兆はないか。 通学できている頻度。	通常学級・特別学級は問わない。	保護室登校をしている。 通信制高校に通っている場合で 集団参加に課題があるケース。	登校しつりがある（親の送り迎えなどで何とか登校している） 毎日登校ができていない。（週に数日） 登校しても短時間で下校している。（朝だけ・昼からなど） デイサービスなどには参加できている。	ひきこもり状態。 外出することが出来ない。		

地域生活・地域交流	函館G	公園でルールやマナーを守って遊んだり、公共の交通手段の利用ができますか 地域にある公共施設や交通手段を利用する時の様子。	ルールを守って利用できる	大人が見守っていれば利用できる	支援があれば利用できることもある	常に大人が介助しなければ、利用できない		行政 保護者 事業所
地域生活・地域交流	函館G	交通ルールが守れますか (学童のみ) 信号が理解でき、横断歩道を安全確認して渡れる。角々で安全確認ができる。車道と歩道の区別が付いている。歩いている人に関する道路標識の意味が分かる。車が危険であることが分かっている。	守れる	支援があれば守れる	大人の付き添いがあれば守れることもある	理解ができず、全く守れない		行政 保護者 事業所
地域生活・地域交流	秋田G	幼稚園や保育園、小学校には嫌がらずに行く事ができますか いきしりがあるか、身近な集団生活に适应できているか。	できる	行きしりがある	付き添いが必要	登園、登校は難しい		行政 保護者 事業所
地域生活・地域交流	秋田G	学校内外の活動に参加していますか (学童のみ) クラブ活動や地域の行事等、義務教育とは異なる、自身で選択可能な活動に参加しているか。	参加している	していないが、参加したいと思っている	参加していない			行政 保護者 事業所
地域生活・地域交流	青森G	なし						
地域生活・地域交流	青森G	なし						
地域生活・地域交流	大阪G	日常生活的な生活の中で、学校、幼稚園、保育園、デイサービスや子育てサロンなどに利用または通っていますか 日常生活において、社会資源の利用の有無を確認する。楽しく通っている・行き渋り・不登校等の自己選択・自己決定を確認する。	(毎日)通っている	時々通っている	学校・幼稚園・保育園には行けていないがデイサービス等には行けている	通いたい意思はあるがなかなか行けない	通っていない(利用していない)	行政
地域生活・地域交流	大阪G	友達との関係について教えてください (学童のみ) 余暇・クラブ活動への参加を確認する。人との関係をつくっていくことができるかを問う。	放課後に友だちと遊びに行く	学校の休憩時間や放課後等デイサービス等、限られた場所で友達と一緒に遊んでいる	大人を介してなら、友達とのかわりを持つことができる	学校内でも友達とのかわりはほとんどない		行政
地域生活・地域交流	鹿児島G	自分の気持ちを相手に伝えられたり、簡単な事は自分で決められますか 自分の気持ちがわかり、それに見合った判断ができるかどうかを確認します。思春期以降は自分のことを理解したうえで、必要なことが決められるかどうかを確認します。また、自らの状況だけでなく、相手がいる際は相手の気持ちもくみ取りながら、決定することができるかどうかを確認します。	自分の気持ちを相手に伝えたり、簡単な事は自分で決める事ができる	選択肢やモデルを示すことで、物事を決め、自分の気持ちを相手に伝えることができる	自分の気持ちを特定の人であれば伝えることができる	物事を決めたり、自分の気持ちを伝えたりすることが難しい		行政
地域生活・地域交流	鹿児島G	学校以外にも地域の行事に参加したり、地域資源を活用していますか (学童のみ) この設問は、地域とのつながりの状態を確認します。地域資源とは、公共施設、商業施設等をいいます。	一人で、学校以外にも地域や他の集団と関わる事ができる	一人で、学校以外にも地域や他の集団とまれに関わることができる	大人と一緒にであれば、学校以外にも地域や他の集団との関わる事ができる	学校以外には地域や他の集団との関わる事が難しい		行政

3) 行政担当者による調査を想定した項目の抽出 B チーム担当

- i) ここでは、実際に行政で実施できる形であるかどうかを想定し、C チームが作成した10領域155項目の設問・解釈・選択肢内容を確認しながら、個別サポート加算Ⅰの指標調査として適切と考えられる項目を抽出した。

① 項目抽出は、次の3点に基づき行なった。

- (ア) 「医療的ケア児」に関するものは除外
 (イ) 発達支援に限定されない項目は除外 ex.アレルギーなど
 (ウ) 生活年齢、発達段階に依存する項目の扱いとなるものは除外

- ② 項目抽出は以下の表の通り、①「指標案対象◎」②「今後の検討指標項目として残す△」「③指標対象外項目×」を分類し、最終的に、通常の支援に加え、さらに配慮や対応が必要と判断できる項目を抽出し、行政担当者が実施できる数も考慮した指標案を抽出をした。

①健康・生活

1	生活リズム	偏食、アレルギー	発達支援に無関係	×
2	生活リズム	食事の手伝い	ADL	◎
3	生活リズム	排泄	ADL	◎
4	生活リズム	睡眠	通所では不要であるが困り感あり	△
5	生活リズム	気温に合わせた衣服	出来たら支援必要ない	×
6	生活リズム	家庭の養育状況	発達支援に無関係	×
7	生活習慣	入浴	通所と入所では違う	△
8	生活習慣	洗顔	年齢依存	×
9	生活習慣	歯磨き	年齢依存	△
10	生活習慣	清潔	年齢依存	×
11	生活習慣	着脱	年齢依存	◎
12	生活習慣	整容	年齢依存	△

②言語・コミュニケーション

1	2 項関係	視線	年齢・発達依存	◎
2	2 項関係	ものに興味	年齢・発達依存	×
3	3 項関係	指示方を見る	年齢・発達依存	×
4	3 項関係	指差し要求	年齢・発達依存	×
5	3 項関係	可逆の指差し	年齢・発達依存	×
6	自己気づき	呼名反応	年齢・発達依存	△
7	自己気づき	身体各部	年齢・発達依存	×

8	理解	理解言語	年齢・発達依存	×
9	理解	身振りでやり取り	年齢・発達依存	×
10	表出	表出	年齢・発達依存	◎
11	表出	単語 2 語文～	年齢・発達依存	×
12	表出	伝える意思	年齢・発達依存	×
13	その他	模倣	年齢・発達依存	×

③人間関係・社会性

1	愛着	慣れた人と離れた	年齢・発達依存	△
2	人かかわり	他者への関心	年齢・発達依存	×
3	人かかわり	やりとり	年齢・発達依存	◎
4	あそび	2-3 人で	年齢・発達依存	×
5	あそび	5-10 人	年齢・発達依存	×
6	あそび	ルールの理解	年齢・発達依存	△
7	あそび	トラブル頻度	年齢・発達依存	◎
8	集団	集団参加	年齢・発達依存	◎
9	集団	やりとり	年齢・発達依存	△
10	集団	行事参加	年齢・発達依存	×
11	感情コントロール	快・不快コントロール	年齢・発達依存	△
12	感情コントロール	気持ちの伝達	年齢・発達依存	△
13	やりとり	困ったとき	年齢・発達依存	×
14	その他	集団を意識	年齢・発達依存	×

④認知・行動

1	身体知覚	ボディイメージ	年齢・発達依存	×
2	認知偏り	こだわり		×
3	認知偏り	切り替え方法		△
4	認知偏り	切り替え時間		△
5	運動企画	模倣	2-⑬ダブリ	×
6	危険回避	危険回避		◎
7	注意力	気が散りやすい		◎
8	情緒	不安強い	ダブリ 3-⑪	△
9	見通し	見通し		◎
10	見通し	予定変更		◎
11	その他	突然乱暴	ダブリ 3-⑫	×

⑤感覚・姿勢・運動

1	感覚器官	追視		×
2	感覚器官	聞こえ		◎
3	感覚器官	味覚？偏食？	ダブリ 1-①	×
4	感覚器官	触覚 過敏 鈍感		△

5	感覚器官	咀嚼嚥下	年齢・発達依存	◎
6	姿勢	立位	年齢・発達依存	×
7	姿勢	座位	年齢・発達依存	◎
8	手指	手指操作	年齢・発達依存	×
9	目と手	シール貼り	年齢・発達依存	×
10	目と足	ジャンプケンケン階段	年齢・発達依存	◎
11	不器用	ジャンケン	年齢・発達依存	×
12	移動	独歩	年齢・発達依存	◎
13	移動	走る	年齢・発達依存	△
14	移動	止まる	年齢・発達依存	×

⑥医療的配慮（20 以外は全てカット）

20		てんかん発作		◎
----	--	--------	--	---

- ii) 領域ごとに抽出された項目 6 領域 20 項目＋児童期・思春期のコミュニケーションの 1 領域の 3 項目を抽出し、行政担当者による個別サポート加算 I の調査項目案とした。

言語・コミュニケーション [2 項目]

番号	視点	設問	選択肢					向き
1	(人対人)	お子さんは、楽しい時などに目を合わせますか？	①	②	③	④	⑤	行政
			目が合い、微笑んだり、嬉しそうな表情をみせる	子どもが訴えている（要求する）時は目が合う	あまり目が合わない/合っても持続しない	ほとんど目が合わない		
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		1対1の関係性について 期待感 共感性 共感的スマイル 例えば「イナイナイバー」	人との1対1の関係が成立している（経験していた） 人に対する期待感、共感性がある	人との1対1の関係が成立している（経験していた）が、一方的だったり発信力が弱い 人に対する期待感、共感性が弱い	目があることはあるが、言葉がけや感情を共有する場面でないことが多い			
2	(意思の表出)	お子さんは、どんな方法で自分の意思を伝えますか？	①	②	③	④	⑤	行政 保護者
			言葉を使って伝える	身振りで伝える	泣いたり怒ったりして伝える	意思表示がない		
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		自分の意思を相手に伝える手段の有無	主に言葉で伝える	意思を伝えようとする方法が主に行動（行きたいところに手を引っ張っていき/ちょうだいなどの動作）や指さしなど	意思を伝えようとする方法が不適切（奇声をあげるなど）	意思を伝える気持ちがない/諦めている または意思を伝える手段がない		

人間関係・社会性 [3 項目]

番号	視点	設問	選択肢					向き
3	(他者への関心興味)	親、友だち、支援者とやりとりしたり、相手からの働きかけに答えられますか？	①	②	③	④	⑤	すべて
			自分から働きかけたり、相手からの働きかけに反応する	ごく限られた人であれば反応する	自分から働きかけることはほとんどないが、相手からの働きかけには反応することもある	過剰に反応するか全く反応しない		
			解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
			親しい人（家族や子どもに直接接する支援者、友だち、仲間）と子どもがどのようにやりとりしたり、働きかけに応じているか（集団を利用している場合は、家族だけでなく、その集団の支援者やそこの他の子たちへの関心の示し方聞く）	適度な距離感を保ちながら、相手に自分からやりとりを求めたり、相手からの働きかけに答えることができる	特定の人であれば、関わりが持てる（パターンの関わり方も含む）	自分から相手に働きかけることはほとんどないが、相手から関われることに対しては、嫌がることはなく、反応することもある	一方的に自分の思いだけ伝えようとしていたり、相手が嫌がっても過剰に近づいていく 逆に、相手に関わってきても、拒否したり、無関心でほとんど反応しない	
4	(トラブル頻度)	同年代の子と一緒に過ごす中で、トラブルが起こることがありますか？	①	②	③	④	⑤	行政 事業所
			ほとんどないが、あっても自分たちで解決できる	トラブルがあっても、大人の支援があれば解決できる	支援があっても、解決できる時とできない時がある	常にトラブルが起き、解決できない		
			解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
			一緒に過ごしたことがある、同年代の子1～2人と過ごす中で、トラブルになった時の子どもの様子	自分の意見を伝えたり、相手の意見を聞いて、友達と一緒に解決できる相手の気持ちを察して、合わせることで、トラブルなく過ごせる	支援（子どもが理解できる手段で、あらかじめそこの過ごし方を伝える、双方の意見を聞く、解決方法をアドバイスする等）があれば、解決できる	支援（その子が理解できる手段で、あらかじめそこの過ごし方を伝える、双方の意見を聞く、解決方法をアドバイスする等）があっても、解決できる時とできない時がある	相手の意見は一切聞き入れず、自己主張を続ける 常にトラブルが起きている	
5	(集団への参加状況)	集団活動に参加できますか？	①	②	③	④	⑤	行政 事業所
			指示やルールを理解して、最初から最後まで参加できる	興味がある内容であれば、部分的に参加できる	支援があれば、その場にはいられる	全く参加できない		
			解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
			現在所属している集団（保育所、幼稚園、認定こども園、学校、児童発達支援事業、放課後等デイサービス、放課後児童クラブ等）の自分のクラスの中で、担任（担当者）が設定した集団活動に参加している様子	全体への指示で、活動の内容、やり方、ルールを理解して、最初から最後まで参加できる	活動の内容に、興味関心があれば参加できる 全部はできなくても、部分的に参加できる	支援（子どもが理解できる手段で、内容を説明する等）があれば、理解できる部分には、参加できる	支援があっても、集団活動には参加できない 強い拒否を示したり、その場にいられない	

認知・行動 [5 項目]

番号	視点	設問	選択肢					向き
6	危険回避行動	危険なことがわかり、気をつけることができますか？	①	②	③	④	⑤	すべて
			自発的にできる	声かけ等でできる	身体の制止でできる			
			解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
			外出先や屋内で危険な物や場面に気付き、それを感じる行動ができるか	特に周りで注意しなくても、自分で危険な物や場面を理解して避けることができる	一人では難しいが、養育者等が声かけや視覚的な手がかりで危険を伝えることで注意ができる場合	体を抑えたり手を取りたりすることが必要		
7	注意力	見聞きしたり物事に取り組む時に、気が散りやすく集中できないことがありますか？	①	②	③	④	⑤	すべて
			ほとんどない	部分的にある	よくある			
			解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
			他者の話をきく時や課題に取り組む時に周りの様子が気になったり、立ち歩いたり、集中できなくなる	特に日常生活で気になることはない 本人も周囲も困り感がない	目につくところに気になるもの（玩具、テレビ、窓など）がある、初めての場所である、興味の薄い内容である等、場合によっては集中できないことがある	集中することが難しく、注意が逸れやすい		
8	(予測理解)	見通しを立てて、行動をすることが出来ますか？	①	②	③	④	⑤	すべて
			できる	声かけでできる	視覚的な情報があればできる	その他の工夫が必要		
			解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
			一日の生活の流れを理解して行動ができるか。一連の活動において、先を予測して順序立てた行動がとれるか	自発的に行動でき、介入しなくても日常生活に支障をきたさない	わからない時もあるが、次の行動を声掛けすればそれに従って行動することができる	声掛けだけでは難しいが、次の行動につながる見本や写真などの視覚的な手がかりがあれば、それを見て行動することが出来る	声かけや視覚的な手がかりのみでは不十分で、その他の介入を要する（例えばメロディやアラーム、体に触れて教える等）	
9	(急な変化対応)	急な予定変更に対し、対応できますか？	①	②	③	④	⑤	すべて
			スムーズにできる	声かけでできる	視覚的な手がかりでできる	その他の工夫が必要 対応できない		
			解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
			一日の流れの中で、当初の予定に変更が生じてても理解して対応できるか。一連の活動の中で、行程やゴールに変更が生じてても対応できるか	予定変更を理解し、自発的に対応できる	最初の指示に対して対応できない時もあるが、次の行動を個別に声掛けすればそれに従って行動することができる	声掛けだけでは難しいが、次の行動につながる見本や写真などの視覚的な手がかりがあれば、それを見て行動することが出来る	声掛けや視覚的な情報だけでは不十分で、例えばメロディやアラーム、体に触れて教えることや、他の工夫も必要 急な予定変更が伝わり難く、混乱してパニックに状態になったりする	

10	その他	設問	選択肢					向き
		突然、自分や相手に対して乱暴な言動をとる時がありますか？	①	②	③	④	⑤	
			ほとんどない	ある-対処方法がある	ある-対処方法は特はない			
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		パニックなど、突発的な出来事に対して感情が抑えられずに相手に暴力をふるったり暴言をはいしてしまうことがあるか。また自傷行為をしてしまうことがあるか	感情が抑えられなくなることはない。またはあっても日常生活に大きな支障はない	特定の場所への移動や物の使用により、乱暴な言動が長期化しない。または、気持ちを鎮めることができる	いろいろな工夫しても乱暴な言動の収束にすぐは結び付かない。または一定の時間をかけて落ち着くのを待つしかない			なし

医療的配慮 [2 項目]

番号	視点	設問	選択肢					向き
11	(発作)	発作がありますか？	①	②	③	④	⑤	行政
			ある	なし				
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		発作の種類、医師の診断の有無	てんかん発作、ぜんそく発作、その他 ※チック症は除く 医師の診断の有無、※抗てんかん薬の服薬の有無	抗てんかん薬の服薬がない場合				
12	(胃ろう等)	胃瘻/腸瘻の処置を受けていますか？	①	②	③	④	⑤	行政
			受けている	受けていない				
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		胃瘻・腸瘻のいずれかの確認	選択肢の通り	選択肢の通り ※以前処置を受けていた場合も含む				

感覚・姿勢・運動 [5 項目]

番号	視点	設問	選択肢					向き
13	(聞こえ)	物の音、人の声が聞こえますか？	①	②	③	④	⑤	行政
			聞こえる	補聴器などの補助装置があれば聞こえる	聴き取れない音がある。または過敏で補助装置が必要である	音や声を聞き取ることは難しい		
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		発達障害ではなく聴力が確認できるかの設問	聴力に問題がない	補助装置を使用することで一定の聴力を保つことができる	聴力になんらかの問題がある	補助装置などを使用しても、機能的に音や声を聞き取ることが難しい		
14	(口腔機能)	食べ物をよく噛んで飲み込むことができますか？	①	②	③	④	⑤	行政
			食物を噛んで飲み込むことができる	やわらかい食べ物を、押しつぶして食べれる	食べ物が近づいたら口を開けて取り込み、口を閉じて飲み込める	哺乳瓶などを使っている。口から食べることが難しい		
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		口腔機能の状況を確認する 咀嚼・嚥下の状態、食材の形状による違いがあるか 構造上の課題があるか	前歯で噛みとり、奥歯でかみつぶせる 咀嚼・嚥下の状態、食材の形状による違いがあるか 構造上の課題があるか	食材や調理方法を工夫している 舌や歯茎で食物を押しつぶして食べれる 調理方法など特別な配慮を必要としない	口唇にスプーンをあてると開口し、口唇を閉じて飲み込むことができる 丸呑み 口蓋裂などへの対応が必要である	口蓋裂・咬合不良・噛みこみなどがある 栄養摂取は、胃ろうなどの経管栄養で行っている		
15	(姿勢の保持)	一人で座って、手を使って遊ぶことができますか？	①	②	③	④	⑤	行政
			一人で座って、手を使って遊ぶことができる	手で支えて、座ることができる	からだの一部を支えてあげると、座れる	座位を取るには、全身を支える必要がある		
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		一人で座位になり、遊べるか確認する 座位は臀部が床に接地している。横座り、割座、胡座、投げ出し座りなど	自分で座位に起き上げる 手を使って遊べる	介助者が座位にセットしてあげる必要がある 座位を保つには、手の支えが必要である（両手や片手で自分で支える） 正座、投げ出し座り、横座りなどできる方法でよい	肩、胸、腕など体の一部を介助者に支えてもらう必要がある からだの一部を支えたり、支えるための工夫があれば座れる	頭の支えを必要とする 頭がすわっていない 後ろにもたれた姿勢で座る		
16	(目と足の協応)	階段昇降・ジャンプ・ケンケンができますか？	①	②	③	④	⑤	行政
			ケンケンが3回以上できる	交互に足を出して階段を上り、下りできる	両足同時にジャンプし、転倒せずに着地できる	階段は、同じ足を先に出してのぼる	どの動きもできない	
		解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	解釈	
		手の支え無しで行い、選択肢の行為ができるか確認する	左右どちらかの足でできれば良い	足の置く位置を目で見えて確認しなくても、上ることと下りること両方がスムーズにできる	選択肢の通り	交互に足が出ない	階段昇降・ジャンプ・ケンケンができない	

	視点	設問	選択肢					向き
			①	②	③	④	⑤	
17	(移動・歩く)	一人で歩くことができる	一人で歩くことができる	一人で歩くことができるが、近目で見守りが必要	一人で歩くことができるが、手をつなぐなどの介助や杖・保護帽などの補助員が必要	一人で歩けない		行政
		解説	解説	解説	解説	解説	解説	
		族員があれば自立して歩ける人はどこに入れるのかの議論になった ①と考えるのか②あるは③と考えるのか（この項目に限らずこの指標全体で統一する必要がある）	補族員が身体に合っていて自立歩行に支障がない状態	安定性やバランスの面で不安がある状態 補族員に慣れておらず、体の使い方にぎこちなさがある状態や補族員を使い始めて間もない場合	②よりも介助が必要な状態 補族員をつけているが、転倒が度々ある状態	車いすを使用している		

健康・生活〔3項目〕

番号	視点	設問	選択肢					向き
			①	②	③	④	⑤	
18	(食事・手伝い)	食事について手伝いが必要ですか？	一人で食べられる	見守りやことば掛けが必要	一部手伝いが必要	常に手伝いが必要		すべて
		解説	解説	解説	解説	解説	解説	
		食事の際の環境の調整がどのくらい必要か確認します 食べる場所・人・時間・食具・食事の形態など体の成長発達と情緒面の成長でどの程度の手伝いが必要か確認します 過食、拒食、異食行為、反すうなどは④とします 3歳未満児は③～④とします 場所（自宅と園・学校等）が違ふことによって、食べる、食べない等がある場合は、食べない状況を基に判断します	あまり食べこぼしもなく、箸（エジソン箸などの特殊箸を除く）を使用して食事を自分で食べることができる状況です 年齢相応の食形態で、1日3食食べる習慣がある状況です	窒息や危ない行動をしないかなどの見守りや食事の進捗状況で、ことば掛けが必要な状況です 給食を皆と一緒に食べることができる状況です	食料を小さくしたり、時折食料を口に運ぶ手伝いを要するなどの状況です スプーンやフォークを使い食べる状況です	食事の形態を柔軟にしたり、つぶしたりするなど手助けが必要な状況。栄養補助のミルクなどがある手づかみや食べこぼしが多い窒息や椅子からの転落がないかなど常に個別の対応が必要な状況です 食事に関する介助を払いのける・食器や食料を投げるなどの行為がある集団での食事が難しく、個別の環境設定が必要な状況です		
19	(排泄)	一人でトイレに行き、排泄ができますか？	一人でトイレに行き、排泄ができる	見守りやことば掛けで、トイレで排泄ができる	一部手伝いが必要	常に手伝いが必要		すべて
		解説	解説	解説	解説	解説	解説	
		排尿・排便に関する行為について、支援が必要かどうかを確認します 排泄には、尿意便意の表出があるか、トイレでの排泄に関する一連の動作がどの程度できるのか、便座への昇降や姿勢の保持などに介助を要するのかが、清潔に対しての認識はどの程度か聞き取る必要があります 3歳未満児は③～④とします	尿意・便意を感じとり、トイレでの排泄・ドアの開閉・着衣を下す・便座への昇降・姿勢の保持・排泄・ふき取り・体勢の変換・着衣を上げる・姿勢の保持・流水・手洗い・ドアの開閉・手洗いなど一連の行為を一人でできる状況です	①の行動をことば掛けで行動し、見守りで行うことができる状況です	大人がある程度の時間間隔で誘導することでトイレ・オマル等で排泄することができるが、拭き取り等は介助が必要な状況です 「おしっこ」「うんち」「トイレ」・ジェスチャーなど意思表示もしくは介助を求めることができます 決まった場所ではしか排泄をしたがらない場合で、例えば、決まった便器でしかできない、自宅のトイレ以外ではできない等を含みます	排泄に関して譲れないルールがある、介助があることにに対して拒否がある、排泄物を直接手で触ったり、排泄する場所でないところでの排泄があるような状況です 導尿・自己導尿の見守り・ストーマや摘便などの医療的介助が必要、おむつや尿取りパットを使用、自立しているがオムツを着用したがる、頻尿がある、月経の対応に手伝いが必要な場合を含みます		
20	(着脱)	着替える時に手伝いが必要ですか、また、汚れた時や濡れた時に自ら着替えることができますか？	手伝わなくてもできる	見守りやことば掛けがあればできる	一部、手伝いがあればできる	常に手伝いが必要		すべて
		解説	解説	解説	解説	解説	解説	
		衣類や靴の着脱動作で手伝いが必要か、衣類や靴の形状、素材の選択に配慮が必要か、汚れた際に着替えができる、定期的に古くなった服などをかえることができるかどうかを確認します 3歳未満児は③～④とします	衣類の前後を間違えることなく着脱したり、靴の左右を間違えることなく履いたりできる、衣類や靴、靴下が汚れた時や濡れた時に自分で気づいて着替えることができる、TPOや気候に合わせた衣類を自分で選択できる等の状況です	衣類の前後や靴の左右を間違える、ボタンをかけ間違えることがあり、ことばかけや見守りが必要、TPOや気候に合わせた衣類を選択するには、確認が必要な状況です	ボタンやファスナー等がある場合は手伝いが必要、衣類の前後や靴の左右がわかるように目印をつけたり、置いたりすることが必要な状況です	一人で衣類を着たり、靴を履いたりすることが難しく、脱ぎ着する時にはほとんど手伝う、衣類が濡れると場面を問わず人前で衣類を脱ぐことがある、感覚の過敏さから衣類の着用や靴下、靴を履くことを極端に嫌がったり、素材が限定されたりする、また感覚の鈍感さから衣類や靴、靴下が濡れたり汚れたりしても、着替えようとせず、手伝いが必要な状況です		

本来であれば、さらに詳しい検証等が必要と考えるが、時間の制約等もあり、未だ不足な部分もある。作成過程において、留意したことと今後検討が必要と思われることを以下に整理する。

個別サポート加算Ⅰの指標調査項目（案）の作成にあたっては、以下の点に留意した。

- 今後の検討すべき課題は以下の通りである。

- p. 118

力を獲得したものであると判断するのかなど…その見極めの難しさも挙げられる（サポート加算対象となるのか、）。【継続支援との関連性】

- ② 個別（家庭等）におけるあらわれと、集団の中におけるあらわれの違いの判断は、どのように行い、何を持って判断していくのか【環境との関連性】
- ③ 思春期の項目については、どの困り感を示せる指標をどの項目で見るのか、様々な活動ごとに見てゆくと多様な指標となる。今回は、今のあらわれに対する個別支援目標につながるものと、本人の困り感の根拠となる視点とを区別して考え、あらわれの根拠となる視点でのコミュニケーション項目のみとした。【思春期のとらえ方との関連性】
- ④ 医療的ケアや看護師加算、強度行動障害のスコアの該当ではないが、予防的な支援に対する評価として、加算Ⅰ対応をどのように見るか。【予防的支援との関連性】
- ⑤ 幼児期⇨児童⇨思春期とライフステージが移り変わっていく中で、指標項目の解説や判断の視点の内容の精査にも悩まされ、その辺りをどう押さえていく必要があるのか課題として残った。【年齢やライフステージに合わせた、評価につながる項目や解説・選択肢との関連性】
- ⑥ 小規模な事業所など、看護師や難聴対応等の専門職がいない事業所であっても、多様な障害状況の子どもが利用を希望した時、サポート加算Ⅰとして対応できる方法も模索しなければいけないのではないかと【専門職員配置の有無との関連性】

（２） 指標調査項目（案）に対する設問・選択肢・解釈作成の段階

「子どもの現状を把握するため、さらに支援の質をよくするための視点」と「行政の窓口で子どもたちを理解し配慮して評価できる視点」にあるように、「誰のための指標なのか」を明確にすることを随時共有して進めた結果、各ブロック内で活発な意見交換とそのための調査項目の内容を考えるプロセスが生まれた。

視点を明確化することにより、設問・選択肢及び解釈もまた多様な視点から１８９項目が出され、最終的には１０領域１５５項目の作成できた。“子どもの全体像を掴む”ということ、現場のイメージを持ちながら考えることによって、発達検査及びアセスメントにかなり近い形となった。

（３） １０領域１５５項目から評価項目への選定の段階

実際の行政窓口の調査場面では調査時間の長さにも関係することを考えると、適正な時間で評価できる数に選定していくことが求められた。

思春期項目においては、今回、現場からは様々な状況を捉えた設問が４領域６８項目挙げられた。ただし、①項目内容・選択肢・解説等の文言の検討② 選択肢数の統一等、実際に評価指標とするときの基準の整合性については今回の研究では行っていないので、今後の課題である。思春期の６８項目の設問からは、年齢的にも社会との接点が増え、求められることに対するうまくいかなさがある（子どもの困り感がそこにみえる）現状もうかがえた。また、現場の声としても、思春期の支援の難しさを共有する機会となった。ケアニーズの高さを評価できる形をめざした。

しかし、今回は、主にコミュニケーションの困難性が、様々な行動上の不適応さにつながることを中心に考え、コミュニケーションの３項目を選ぶこととした。

今回の選定にあたっては、現場での臨床経験と多くの子どもの診断や障害認定等に関わってきた小児科医の視点を踏まえて行った。今後、十分な検証や吟味は必要と考えるが、現場で行われている実際の支援の中から作成した設問や選択肢、解説としてできた点は、各事業所や行政等の子どもの理解やイメージの共有としてつながって行くことも期待している。

4. 考察

指標調査項目案の過程において、今までの反省と現状を鑑みて、児童発達支援・放課後等デイサービスの支援提供に携わる現場の意見も取り込んだ、かつ、子どものインクルーシブな生活上での困り感を、反映させた指標を作成することが望ましいと考えた。

一方で、行政職員が、実際に調査し、指標該当の有無を判断することを想定し、判断に差が生じない用語の選定、解釈を準備する必要がある。

児童発達支援・放課後等デイサービスは、児童本人が「最善の利益を受ける」ことができるための支援を提供すべきである。その視点に立つと、この指標は、子どもの現状を多角的、発達的かつ実態的に捉え、子ども自身の育ちや子育ての困り感に焦点をあて、生活上の支援の要点を把握し易い内容であり、行政・利用者・事業所の三者が共通理解のもとに活用されるべきであることが確認された。

制度及び施策の中で、“障害児”という視点ではなく、“子ども”という視点を持ち（切り替え）、未来に向けての再構築を目指す必要性を強く感じている。それは、これまで、何らかの特別な支援を必要とする子どもたちの困り感を把握することに努めてきたが、置き去りにされてきた子どもたちも少なくないという反省に基づき、「できる・できない」に焦点を当てた調査判定から、「困り感」に焦点を当てる調査項目へ、試行的に使用し、フィードバックを得ながら、分かり易く、使い易く、共感と納得を得られ易い新指標調査項目（案）ができればと願う。